

平成29～28（2017～2016）年度

共通教育科目

平成27～26（2015～2014）年度

基礎科目・教養科目

《共通教育科目 建学の精神》

|                           |   |       |          |           |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 宗教と人生   |       | 科目ナンバリング | NFOL11001 |
| 担当者氏名                     | 本多 彩  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選 | 2・必修     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。  
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

| 週  | テーマ                 | 学習内容など  |
|----|---------------------|---|
| 1  | 宗教とは何か              | 誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。                        |
| 2  | 宗教の種類               | 分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。                      |
| 3  | 世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系 | 世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。                 |
| 4  | 建学の精神①              | 建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。                         |
| 5  | 建学の精神②：学内宗教ツアー      | 学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。 |
| 6  | キリスト教を知る①           | キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。                          |
| 7  | キリスト教を知る②           | キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。                  |
| 8  | イスラームを知る            | イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。                          |
| 9  | 仏教を知る①              | 建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。                |
| 10 | 仏教を知る②              | 初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。                       |
| 11 | 仏教を知る③              | 大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。                           |
| 12 | 日本の仏教を知る①           | 日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。                            |
| 13 | 日本の仏教を知る②           | 日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。                        |
| 14 | 建学の精神③              | 兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。                  |
| 15 | 建学の精神④              | 兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。        |

|                           |   |       |          |           |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 仏教と現代社会   |       | 科目ナンバリング | NFOL21002 |
| 担当者氏名                     | 本多 彩  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

宗教研究は民俗学・民族学や人類学や社会学など多くの学問領域と関連する学際的性格をもつ。周りを観察するといかに仏教が生活や思想に関わっているかに気づく。本講義では幅広く仏教と文化について解説し、さらに仏教と人間・グローバル社会・生と死・医療・環境等についての理解を深める。仏教と現代社会や文化について理解し自分自身を見つめるきっかけとする。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

※身近にある仏教について考え説明することができる。  
 ※仏教と現代社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解し説明することができる。  
 ※浄土系の教えについて理解を深め社会とのかかわりについて理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー

《成績評価の方法》

受講態度（宗教行事への参加、講義中の質問も含む） 30%  
 レポート 30%  
 期末プロジェクトと発表 40%  
 この3項目で評価する。  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ          | 学習内容など                                      |
|----|--------------|---|
| 1  | 宗教文化の多様性     | 宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解し説明ができる。        |
| 2  | 仏教の教え(1)     | 仏教の歴史と基本となる教えについて説明することができる。                |
| 3  | 仏教の教え(2)     | 仏教の教えについて説明することができる。                        |
| 4  | 日本社会と仏教①     | 日本文化と仏教の関連について理解し説明することができる。                |
| 5  | 日本社会と仏教②     | 日本人の暮らしと仏教の関連について理解し説明することができる。             |
| 6  | 日本社会と仏教③     | 日本人の死生観と仏教について理解し説明することができる。                |
| 7  | 日本社会と仏教④     | 日本社会で起きている問題について仏教の視点を理解し説明することができる。        |
| 8  | グローバル化と仏教①   | 仏教の視点からグローバル化や宗教多元社会について考え説明することができる。       |
| 9  | グローバル化と仏教②   | 海外でみられる仏教の広がりについて学び説明することができる。              |
| 10 | グローバル化と仏教③   | 世界的な規模で起きている社会問題について仏教の視点をもって理解し説明することができる。 |
| 11 | 現代社会と浄土仏教①   | 浄土仏教の教えの特徴とその展開について学び説明することができる。            |
| 12 | 現代社会と浄土仏教②   | 海外展開する浄土仏教について理解し説明することができる。                |
| 13 | 現代社会と浄土仏教③   | 現代社会がかかえる課題について浄土仏教の視点から取り上げ、考えて説明することができる。 |
| 14 | 仏教と現代社会      | 仏教の教えと現代社会のつながりを整理し発表することができる。              |
| 15 | 仏教と現代社会（まとめ） | 現代社会と仏教の関連について関心を持ったテーマで整理し発表することができる。      |

《共通教育科目 建学の精神》

|                           |            |  |          |           |       |
|---------------------------|------------|--|----------|-----------|-------|
| 科目名                       | 兵庫大学の学びと和  |  | 科目ナンバリング | NFOL21003 |       |
| 担当者氏名                     | 本多 彩、北島 律之 |  |          |           |       |
| 授業方法                      | 講義         | 単位・必選  | 2・選択     | 開講年次・開講期  | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |            | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 |          |           |       |

《授業の概要》

兵庫大学は聖徳太子の説かれた和を建学の精神とし、太子や創始者の先生方が貴ばれた仏教を大切にしています。本講義では建学の精神について深く学びます。教員によるオムニバス形式の講義を通して、所属する学科の専門教育と建学の精神のつながりについて理解を進めます。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

入学時に配布した「ふんだりーか」と『仏教聖典』

《授業の到達目標》

本講義の目的は兵庫大学の建学の精神を深く知り建学の精神が自らの学びとどのように関連しているかを理解することです。  
 ・本講義では聖徳太子の説かれた和、そして仏教について学び説明できるようになります。  
 ・建学の精神があなたの学科の専門教育とどのように関係しているのかを知り伝えることができるようになります。

《授業時間外学習》

現在履修している専門科目授業の中で、建学の精神とつながっていると思うことを発見しよう。  
 一度、仏教の本を読んでみましょう。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加・建学の精神に関連する宗教行事への参加 50%  
 レポート・課題・提出物 50%  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ               | 学習内容など   |
|----|-------------------|--|
| 1  | 兵庫大学の歴史           | 兵庫大学の歴史を学び説明することができる。                            |
| 2  | 兵庫大学と建学の精神        | 建学の精神と兵庫大学が掲げる人間力、実践力について学び説明することができる。           |
| 3  | 兵庫大学の建学の精神と仏教①    | 兵庫大学の建学の精神である和と仏教について学び説明することができる。               |
| 4  | 兵庫大学の建学の精神と仏教②    | 兵庫大学の創始者である3人の先生と和と仏教との関連を理解し説明することができる。         |
| 5  | 兵庫大学の教育と建学の精神の重要性 | 大学教育で建学の精神が重要であることを学ぶ。                           |
| 6  | 健康システム学科の学びと和     | 健康システム学科の専門教育と和について学び説明することができる                  |
| 7  | 社会福祉学科の学びと和       | 社会福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。                   |
| 8  | 日本の仏教① 聖徳太子と仏教    | 聖徳太子の時代の仏教について学び十七条憲法にある和と仏教について理解を深め説明することができる。 |
| 9  | 日本の仏教② 龍谷総合学園     | 浄土系の仏教について学び本学との関係について説明することができる。                |
| 10 | 現代ビジネス学部の学びと和     | 現代ビジネス学科の専門教育と和について学び説明することができる。                 |
| 11 | 栄養マネジメント学科の学びと和   | 栄養マネジメント学科の専門教育と和について学び説明することができる。               |
| 12 | 看護学部の学びと和         | 看護学部の専門教育と和について学び説明することができる。                     |
| 13 | こども福祉学科の学びと和      | こども福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。                  |
| 14 | 兵庫大学と建学の精神        | 話し合いを通して各学科の学びと和について理解を深め、整理して説明することができる。        |
| 15 | 兵庫大学と建学の精神 (まとめ)  | 兵庫大学の学びと和について自らの言葉で伝えることができる。                    |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 英語   | 科目ナンバリング | NCOS11002 |
| 担当者氏名                     | Michael.H.FOX  |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必修    | 2・必修      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英語を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切的な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分らないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                        | 学習内容など         |
|----|----------------------------|----------------|
| 1  | Introduction & Orientation | 自己紹介をする        |
| 2  | Describing People          | 人を述べる事         |
| 3  | Everyday Activities        | 毎日の活動・習慣を喋る    |
| 4  | Food and Drinks            | 食べ物と飲み物の話      |
| 5  | Snacks                     | スナックの世界        |
| 6  | Housing                    | 家・住宅をデザインし、話す事 |
| 7  | Free Time Activities       | 暇と活動           |
| 8  | Popular Sports             | 人気なスポーツは？      |
| 9  | Life Events                | 一生の一大事な行事      |
| 10 | Weekend Plans              | 週末を過ごす         |
| 11 | Movies                     | 映画が好きですか？      |
| 12 | TV Programs                | テレビとその番組       |
| 13 | Health Problems            | 健康と病気          |
| 14 | On the telephone           | 電話の言葉          |
| 15 | まとめ or 自己評価                | まとめ or 自己評価    |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 英語   | 科目ナンバリング | NCOS11002 |
| 担当者氏名                     | 野嵜 一恵  |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・必修      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

食品、栄養関係の場面を想定したテキストを使い、食や栄養などのトピックにまつわる日常的な基本英会話を学習する。栄養マネジメントに必要な用語を英語で知る。

《テキスト》

Peter Vincent, Alan Meadows 他著 「Speaking of Nutrition」 南雲堂

《参考図書》

適宜、授業中に紹介。また英語の歌を通して、英語の発音、イントネーションにも慣れる。

《授業の到達目標》

食品や栄養に関することを中心に基本的な英語でのコミュニケーションができるようにする。

《授業時間外学習》

予習：前もって、予習としてやっておく箇所を言うので、授業までにやっておく。  
 復習：学習したところの対話文を付属のCDを利用して音読練習。毎回の小テストに出題されるフレーズを覚えてくる。

《成績評価の方法》

成績評価は日頃の学習の積み重ねを重視し次の項目で評価する  
 1) 授業参加(小テスト) 50%、2) 復習テスト 20%、  
 3) 発表 30%  
 復習テストはテスト用紙に、発表は別の用紙に、それぞれコメントを記入して返却・配布する。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                               | 学習内容など                               |
|----|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1  | Meeting People                    | 授業方針説明、クラスのルール、クラスルームイングリッシュ、英語で自己紹介 |
| 2  | Talking about the Kitchen(1)      | 調理器具を英語で 場所の言い方                      |
| 3  | Talking about the Kitchen(2)      | 調理器具を英語で 調理動作の言い方                    |
| 4  | Likes and Dislikes                | 食べ物の好き嫌いとお味の表現の仕方                    |
| 5  | Ordering Food: What Do We Need?   | 食べ物の量を表す言い方                          |
| 6  | At a Restaurant                   | レストランでの会話 メニューの読み方                   |
| 7  | Cooking                           | 料理をするときに必要な動詞と時間の流れを説明する言い方          |
| 8  | Recipes                           | レシピの読み方、書き方                          |
| 9  | Giving Dietary Advice             | 栄養士としてのアドバイスの仕方                      |
| 10 | Talking about Diets               | 食事について質問したり、答えたりする                   |
| 11 | Researching Diet Information      | 栄養に関しての情報を調べる                        |
| 12 | Life as Dietitian                 | 栄養士としての生活など、毎日することについて話す             |
| 13 | Talking about Diets               | 毎日の食事について話す                          |
| 14 | People with Special Dietary Needs | 特別な食事が必要な場合の表現                       |
| 15 | Talking about Experiences         | 今までの経験を話す表現 発表                       |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 英語   | 科目ナンバリング | NCOS11002 |
| 担当者氏名                     | 下村 智典  |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・必修      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

コミュニケーションの手段として英語をより積極的に使えるようにするためには、それを正確に理解し自信を持って発信することが必要であるが、本授業はそのための基礎的な技能を養成することを目的とする。この目的を達成するために、グループワークを中心とした授業活動を通じて、学生が相互にコミュニケーションを取り合いながら、英語の「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を実践的に用いる授業を展開する。

《授業の到達目標》

- ①英語を用いてコミュニケーションをする際に最低限必要となる文法項目について理解している。
- ②社会や文化に関する日常的なトピックについて、比較的平易な英語で聴いたり、読んだり、書いたりすることができる。
- ③社会や文化に関する日常的なトピックについて、モデル対話を参考にしながら、平易な英語で相互にコミュニケーションを取ることができる。

《成績評価の方法》

- ①毎回の授業始めに実施する小テスト (40%)
  - ②授業内で指示された課題や作業への取り組み (30%)
  - ③発表 (30%)
- なお、学生へのフィードバックとして、小テストの実施後、その場で答え合わせをしながら解説を加える。

《テキスト》

『English Ace コミュニケーションのための実践基礎英語』  
山本厚子 他著 (成美堂) ISBN:978-4-7919-5089-8

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

- ①小テストに備えて、新しく学習するunitの内容に目を通しておくこと。特に、単語と文法の項目については、しっかりと確認しておくこと。
- ②その日学習した「聴く」・「話す」、あるいは、「読む」・「書く」の技能を再現的に発揮できるよう、授業で学習した内容を復習し、確実に習得すること。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                          | 学習内容など  |
|----|------------------------------|---|
| 1  | Unit1 My Hometown            | 「故郷を紹介しよう」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。      |
| 2  | Unit2 Hobbies                | 「趣味もいろいろ」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。       |
| 3  | Unit3 Shopping               | 「買い物に行くならどこ？」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。   |
| 4  | Unit4 Nature Quiz            | 「クイズに挑戦」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。        |
| 5  | Unit5 Dream House            | 「理想的な住まいとは？」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。    |
| 6  | Unit6 Food                   | 「好きな食べ物は何？」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。     |
| 7  | Unit7 First Date             | 「デートは最初が肝心」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。     |
| 8  | Unit8 Detective Story        | 「探偵は真実を求める」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。     |
| 9  | Unit9 Career                 | 「経歴を話そう」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。        |
| 10 | Unit10 Parties               | 「パーティーに行こう！」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。    |
| 11 | Unit11 Rules and Regulations | 「ルールにもお国柄」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。      |
| 12 | Unit12 Invention & Discovery | 「発明、発見はひらめきが大切」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。 |
| 13 | Unit13 Movie Reviews         | 「映画評論」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。          |
| 14 | Unit14 World Records         | 「世界記録もさまざま」をテーマに、語彙・文法を学び、「読む」・「書く」の技能を中心に応用する。     |
| 15 | Unit15 Future Dream          | 「将来の夢を話そう」をテーマに、語彙・文法を学び、「聴く」・「話す」の技能を中心に応用する。      |

《共通教育科目 コミュニケーション》

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 日本語(読解と表現)  | 科目ナンバリング | NCOS11001 |
| 担当者氏名                     | 辻本 恭子、奥平 賢一郎  |          |           |
| 授業方法                      | 演習  | 単位・必修    | 2・必修      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・期      |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 基教-A コミュニケーション力<br>基教-E 社会・文化について理解する力<br>基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、課題の答え合わせ・説明のあと、設問に取り組むというスタイルで授業をすすめる。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、内容が伝わりやすい文や文書の書き方、敬語の適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって日本語についての知識を深め、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》

6回以上欠席した場合は単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。提出物には状況に応じてコメントを付し、返却する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

| 週  | テーマ                      | 学習内容など  |
|----|--------------------------|---|
| 1  | ガイダンス<br>漢字の習得           | 授業についての説明 ( )はテキストの該当箇所。<br>(第1課)「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法                |
| 2  | 敬語の種類<br>同音異義語           | (第25課)「待遇表現」さまざまな敬語の種類とその用法<br>(第2課)「同音異義語」同音異義語の識別方法                     |
| 3  | 敬意の表現<br>同訓異義語           | (第26課)「待遇表現」敬語の使い分けや言い回しを通じた敬意の表現法<br>(第3課)「同訓異義語」同訓異義語の識別方法              |
| 4  | 手紙の形式<br>生活の中の難読語        | (第15課)「手紙と葉書」手紙などの基本的な書き方<br>(第4課)「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語                  |
| 5  | 手紙の文面<br>熟語の成り立ち         | (第16課)「手紙と葉書」手紙や葉書の文面を書くときの注意点<br>(第5課)「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方                  |
| 6  | 一般的な文書の書式<br>生活の中の四字熟語   | (第20課)「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式<br>(第6課)「四字熟語」誤用しやすい四字熟語                      |
| 7  | さまざまな文書の書式<br>送り仮名の付け方   | (第17・21課)「日誌」・「案内状」さまざまな文書の書式<br>(第7課)「仮名遣いと送り仮名」仮名と日本語                   |
| 8  | 文の書き方<br>生活の中の慣用表現       | (第8課)「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫<br>(第13課)「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例             |
| 9  | 文と文章<br>日本語の表記           | (第9・10課)「文章構成」・「文章の要約」文章としての文の組み立て方<br>(第14課)「原稿用紙の使い方」縦書き・横書きにおける表記法の違い  |
| 10 | 思考と言葉<br>感情と言葉           | (第11・12課)「アイデアの開発」・「レトリック」柔軟な発想と道具としての言葉<br>(第24課)「広告のキャッチコピー」言葉が感情に与える作用 |
| 11 | 文章をまとめる方法<br>他者の文章に学ぶ事   | (第22課)「レポート・小論文」論文の基本的な構造<br>(第23課)「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方               |
| 12 | 自身について知るべき事<br>自身を表現する手段 | (第18・19課)「履歴書」・「エントリーシート」言葉がもたらす印象<br>(第30課)「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な使い方      |
| 13 | 敬語表現の応用                  | (第27・28課)「来客の応対」・「電話の応対」敬語表現の復習   |
| 14 | 言葉が表現にしめる位置              | (第29課)「プレゼンテーション」総合的な表現   |
| 15 | 授業のまとめ                   | 授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。   |

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院)

《参考図書》

資格試験対策研究会編『漢字検定2級頻出度順問題集』(高橋書店)  
 佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)  
 佐藤一明『秘書検定2級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)  
 他は授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

当日の授業の復習をしたうえで与えられた課題を解き、次の授業で取り組む内容を予習しておく。また、日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。

わからないことは担当者に遠慮なく質問してください。

《備考》

国語辞典(電子辞書可)の積極的な活用を心がけること。  
 テキスト改訂により学習内容を変更する場合がある。



|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語 I  | 科目ナンバリング | NCOS21003 |
| 担当者氏名                     | 笹平 康弘   |          |           |
| 授業方法                      | 演習  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 1-4 国際感覚・異文化理解力<br>◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combo Split B」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

日常語800語程度を使って次のことができるようになる：  
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；3) 読む：読んだ内容について話し合える；4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：  
 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%  
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%  
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                             | 学習内容など   |
|----|---------------------------------|--|
| 1  | Unit 7: Time                    | 授業方針説明； A:日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                       |
| 2  | Unit 7: Time                    | B:週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する                                    |
| 3  | unit 8: Special Occasions       | A:休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                               |
| 4  | unit 8: Special Occasions       | B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ  |
| 5  | Unit 9: Come Together           | A:休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                             |
| 6  | Unit 9: Come Together           | B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する  |
| 7  | Review Quiz& Presentation       | 1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う     |
| 8  | Unit 10: Home                   | A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                     |
| 9  | Unit 10: Home                   | A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                     |
| 10 | Unit 11: Clothing               | A:衣服、買い物などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                            |
| 11 | Unit 11: Clothing               | B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する   |
| 12 | Unit 12: Jobs                   | A:アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する                          |
| 13 | Unit 12: Jobs                   | B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する  |
| 14 | Review Quiz& Presentation       | 1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う |
| 15 | Presentation and General Review | 1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ   |

《共通教育科目 コミュニケーション》

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語 I                                     | 科目ナンバリング | NCOS21003 |
| 担当者氏名                     | Michael.H.FOX                              |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・II期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

このコースに、日本語を話せる外国人講師が、親切指導をしながら、国際理解とコミュニケーション能力を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を評価する。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                        | 学習内容など         |
|----|----------------------------|----------------|
| 1  | Introduction               | 自己紹介をする        |
| 2  | My Interests               | 趣味・興味を述べる      |
| 3  | Geography                  | 地理学を語る         |
| 4  | Weather                    | 気候や天気を述べる      |
| 5  | Everyday Activities        | 日常活動を喋る        |
| 6  | Life Experiences           | 人生の主な体験を語る     |
| 7  | School Subjects            | 学内の教科・科目について語る |
| 8  | At School                  | 大学にて。。話し合い     |
| 9  | Phone Messages             | 電話で英語を         |
| 10 | Favors and Requests        | 依頼とお願いを述べる     |
| 11 | Wishes                     | 将来の希望          |
| 12 | Opinions                   | 意見を述べる事        |
| 13 | Getting Away               | 海外へ旅行          |
| 14 | Talking About Sports       | 暇とスポーツ活動       |
| 15 | Review and Self-Evaluation | 復習と自己評価        |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語 I                                     | 科目ナンバリング | NCOS21003 |
| 担当者氏名                     | 松盛 美紀子                                     |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・II期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につける。特にリスニングパートでは、ディクテーションや発話活動を通して英語独特のリズムや発音に慣れる。文法パートでは、基本的な文法事項を再確認する。

《テキスト》

Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC Test Listening and Reading Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2018年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。学習した文法事項を使って日常の出来事を英作文できるようにする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付けて返却する。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                   | 学習内容など   |
|----|-----------------------|--|
| 1  | オリエンテーション             | 学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。                                |
| 2  | Unit 1 Daily Life     | 日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。                |
| 3  | Unit 2 Places         | 場所を表す単語や表現を身につける。文法：日常的によく使われるフレーズを身につける。                |
| 4  | Unit 3 People         | 職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法：代名詞を正しく使う。                    |
| 5  | Unit 4 Travel         | 出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法：再帰代名詞を正しく使う。               |
| 6  | Unit 5 Business       | ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法：文脈に応じた動詞を選ぶ。                |
| 7  | Unit 6 Office         | オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法：時制について理解を深める。                    |
| 8  | Unit 7 Technology     | テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法：類語を整理する。                         |
| 9  | Unit 8 Personnel      | 雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。                          |
| 10 | Unit 9 Management     | 経営に関する単語や表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める①。                     |
| 11 | Unit 10 Purchasing    | 商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める②。          |
| 12 | Unit 11 Finances      | 金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。 |
| 13 | Unit 12 Media         | メディアに関する単語や表現を身につける。文法：助動詞について理解を深める。                    |
| 14 | Unit 13 Entertainment | 娯楽に関する単語や表現を身につける。文法：前置詞について理解を深める。                      |
| 15 | Review                | Review Test  |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語Ⅱ                                      | 科目ナンバリング | NCOS22004 |
| 担当者氏名                     | 笹平 康弘                                      |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 2年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

この授業は、海外旅行、留学など、海外（英語圏）で生活・行動するのに必要な異文化理解及びコミュニケーションの応用力を身につけることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

『English Firsthand1』 Marc Helgesen他著 ロングマン出版  
ISBN: 9789880030598

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

(1) 英語圏で生活・行動するのに必要な日常的话题でコミュニケーションができる。(2) 基礎的な文法・語彙(1000語程度)・表現を使って読み書きができる(3) 海外で生活・行動において、文化の違いが理解できる

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%  
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%

フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                                 | 学習内容など   |
|----|-------------------------------------|--|
| 1  | Introduction                        | 授業方針説明   |
| 2  | Unit 1: It's nice to meet you       | 友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 3  | Unit 2: Who are they talking about? | 人物描写や家族をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する   |
| 4  | Unit 3: When do you start?          | 日課や予定をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する   |
| 5  | Unit 4: Where does this go?         | 場所の描写をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する   |
| 6  | Unit 5: How do I get there?         | 道案内などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する   |
| 7  | Unit 6: What happened?              | 過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 8  | Review & Presentation               | 1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う   |
| 9  | Unit 7: I'd love that job           | 仕事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 10 | Unit 8: What's happening?           | 娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 11 | Unit 9: What are you going to do?   | 未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 12 | Unit 10: How much is this?          | 買い物をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する   |
| 13 | Unit 11: How do you make it?        | 料理などの作り方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 14 | Unit 12: Listen to music            | 音楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する  |
| 15 | Review & Presentation               | 1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う |

《共通教育科目 コミュニケーション》

|                           |                   |          |           |
|---------------------------|-------------------|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語Ⅱ             | 科目ナンバリング | NCOS22004 |
| 担当者氏名                     | Michael.H.FOX     |          |           |
| 授業方法                      | 演習                | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |                   | 開講年次・開講期 | 2年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力 |          |           |

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

Four Corners Student Book One (後半)。

《参考図書》

各授業、歌を勉強し、歌詞を配る。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

全員活発的に参加すること。

《授業計画》

| 週  | テーマ                        | 学習内容など             |
|----|----------------------------|--------------------|
| 1  | Breakfast, lunch & dinner. | 食事の好みを説明する。        |
| 2  | Restaurants                | レストランで食事を注文する。     |
| 3  | Daily diet.                | 食生活を喋る。            |
| 4  | Around Town                | 近所を説明する。           |
| 5  | "How do I get to...?"      | 方向を聞くと説明する。        |
| 6  | Fun in the city.           | 観光案内所に情報を得る。       |
| 7  | "I'm looking for you"      | 自分の行動を説明する。        |
| 8  | "I can't talk now"         | 電話の話。              |
| 9  | These days...              | 日常の生活を語る。          |
| 10 | "What's new?"              | メールの正しいやり取り。       |
| 11 | Last weekend.              | 過去の行動を説明する。        |
| 12 | "You're kidding!"          | びっくりするの表現。         |
| 13 | Getting Away               | 過去の行動を説明する-part 2. |
| 14 | "That's great!"            | ニュースを聞き、反応する。      |
| 15 | We're Finished!            | 最後のレッスンー大復習。       |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語Ⅱ                                      | 科目ナンバリング | NCOS22004 |
| 担当者氏名                     | 松盛 美紀子                                     |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 2年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、TOEICテストの新問題形式に慣れるとともに、必要な情報を的確に捉える力を身につける。リスニングパートではディクテーションや発話活動を取り入れながら応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。文法パートでは基本的な文法事項を再確認する。TOEICに必要な語いを強化するため、定期的に単語テストを実施する予定である。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《テキスト》

Hiroshi Yoshizuka, Michael Schauerer 『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test: Revised Edition』(成美堂、2017年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                       | 学習内容など   |
|----|---------------------------|--|
| 1  | オリエンテーション                 | 学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test                         |
| 2  | Unit 1 Restaurant1        | リスニング：疑問詞を聞き取る。<br>文法：代名詞①（人称代名詞）                |
| 3  | Unit 2 Entertainment1     | リスニング：助動詞の時制を聞き取る。<br>文法：代名詞②（不定代名詞と再帰代名詞）       |
| 4  | Unit 3 Business           | リスニング：前置詞から場所を連想する。<br>文法：時制①（現在、過去の時制）          |
| 5  | Unit 4 Office             | リスニング：人名、肩書き、部署名を連想する。<br>文法：時制②（現在完了）           |
| 6  | Unit 5 Telephone          | リスニング：理由を述べている文章を探す。<br>文法：前置詞①（時、期間を表す前置詞）      |
| 7  | Unit 6 Letter & E-mail    | リスニング：「方法」や「具合」を問う形に慣れる。<br>文法：前置詞②（位置、場所を表す前置詞） |
| 8  | Unit 7 Health             | リスニング：分量や頻度、程度を問う形を覚える。<br>文法：数量形容詞              |
| 9  | Unit 8 Bank & Post Office | リスニング：所要時間、頻度、距離を尋ねる形を覚える。<br>文法：動詞（自動詞と他動詞）     |
| 10 | Unit 9 New Products       | リスニング：勧誘の表現を覚える。<br>文法：接尾辞①（形容詞を作る接尾辞）           |
| 11 | Unit 10 Travel①           | リスニング：話者の意図を考える。<br>文法：接尾辞②（副詞を作る接尾辞）            |
| 12 | Unit 11 Travel②           | リスニング：否定疑問文の形を覚える。<br>文法：分詞構文                    |
| 13 | Unit 12 Job Applications  | リスニング：話者が期待する具体的な行動を聞き取る。<br>文法：比較               |
| 14 | Unit 13 Shopping          | リスニング：付加疑問文の形を覚える。<br>文法：受動態                     |
| 15 | Review                    | Review Test                                      |

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 実用英語Ⅲ   | 科目ナンバリング | NCOS22005 |
| 担当者氏名                     | 笹平 康弘   |          |           |
| 授業方法                      | 演習  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 2年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

この授業は、「実用英語II」をさらに発展させ、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語で発信すること大切さを理解し、その応用力を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

「English Firsthand (4th edition) 2」 Marc Helgesen, Steven Brown著 ロングマン出版

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、特に「聴き、話す」において、日常語1500語程度を使って次のことができるようになる：

- 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる
- 2) 話す：家族、興味・関心事、文化、社会などについて意見交換できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- |          |     |       |     |
|----------|-----|-------|-----|
| 1) 授業参加  | 30% | 2) 課題 | 20% |
| 3) 復習テスト | 20% | 4) 発表 | 30% |
- フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

受講時の英語力として、英検3級、TOEIC300点程度もしくはそれ以上が望ましい。

《授業計画》

| 週  | テーマ                              | 学習内容など  |
|----|----------------------------------|---|
| 1  | Introduction                     | 授業方針説明  |
| 2  | Unit 1: Have you two met?        | 友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する             |
| 3  | Unit 2: You must be excited!     | 人間の感情表現をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する                |
| 4  | Unit 3: Where should I go?       | 旅行などで使う意見交換や個人的経験をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する      |
| 5  | Unit 4: I love that!             | 興味や意見をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する                  |
| 6  | Unit 5: What's your excuse?      | 日常生活で起こる問題をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する             |
| 7  | Unit 6: What's it like there?    | 異文化をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する                    |
| 8  | Review & Presentation            | 復習として、Unit1から6までの範囲で小テストを実施し、2分程度のプレゼンテーション（テーマは自由）を行う  |
| 9  | Unit 7: Do you remember when...? | 過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する                 |
| 10 | Unit 8: Let's have a party!      | パーティー、レジャーなど娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する         |
| 11 | Unit 9: What should I do?        | 日常生活で起こる問題をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する             |
| 12 | Unit 10: Tell me a story         | 物語ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する                    |
| 13 | Unit 11: In my opinion ...       | 世界情勢ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する                  |
| 14 | Unit 12: It's my dream!          | 将来の夢・目標ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する               |
| 15 | Review & Presentation            | 復習として、Unit7から12までの範囲で小テストを実施し、2分程度のプレゼンテーション（テーマは自由）を行う |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 中国語（初級）                                    | 科目ナンバリング | NCOS21006 |
| 担当者氏名                     | 佟 曉寧                                       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業計画》

| 週  | テーマ                 | 学習内容など   |
|----|---------------------|--|
| 1  | 第1課<br>こんにちは 発音1    | 挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）                             |
| 2  | 第2課<br>また明日 発音2     | 挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）                               |
| 3  | 第3課<br>ありがとう 発音3    | 挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）                                  |
| 4  | 第4課<br>お久しぶり 発音4    | 挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）                               |
| 5  | 発音のまとめ              | 発音についての総復習   |
| 6  | 第5課<br>名前の言い方とたずね方  | ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）                 |
| 7  | 第6課<br>動詞、助詞        | ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）                 |
| 8  | 第5課・第6課の復習          | 第5・6課についてのまとめと練習   |
| 9  | 第7課<br>中国語語順        | 基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文<br>ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）     |
| 10 | 第8課<br>助動詞、動詞、指示代名詞 | 助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文<br>ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD） |
| 11 | 第7課・第8課の復習          | 第7・8課についてのまとめと練習   |
| 12 | 第9課<br>動詞、方位詞       | 動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文<br>ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）    |
| 13 | 第9課<br>前置詞、場所代名詞    | 前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文<br>ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）    |
| 14 | まとめ                 | 発音・文法についての総復習  |
| 15 | まとめ                 | 会話・作文についての総復習  |

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる



|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 中国語（中級）                                    | 科目ナンバリング | NCOS21007 |
| 担当者氏名                     | 佟 曉寧                                       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

| 週  | テーマ     | 学習内容など                   |
|----|---------|--------------------------|
| 1  | 第10課 文法 | ①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文   |
| 2  | 第10課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 3  | 第11課 文法 | ①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方      |
| 4  | 第11課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 5  | 第12課 文法 | ①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方      |
| 6  | 第12課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 7  | 第13課 文法 | ①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる） |
| 8  | 第13課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 9  | 第14課 文法 | ①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方     |
| 10 | 第14課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 11 | 第15課 文法 | ①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」      |
| 12 | 第15課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 13 | 第16課 文法 | ①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」       |
| 14 | 第16課 会話 | 会話の練習、ヒヤリング、ドリル          |
| 15 | まとめ     | 総復習                      |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 韓国語（初級）                                    | 科目ナンバリング | NCOS21008 |
| 担当者氏名                     | 李 良姫                                       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようになる。文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
  - 2) 課題等の提出物20%
  - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

| 週  | テーマ            | 学習内容など  |
|----|----------------|---|
| 1  | 韓国と韓国語について     | 韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について              |
| 2  | 基本母音・子音・平音     | ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。                        |
| 3  | 激音と濃音          | 日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。 |
| 4  | パッチム           | パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。                    |
| 5  | 合成母音           | 合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。                       |
| 6  | 挨拶／「私は日本人です。」  | 「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。             |
| 7  | 「日本人ではありません。」  | 「～ではありません」という基本文型について理解する。                    |
| 8  | 「それは何ですか。」     | 日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。            |
| 9  | 「約束があります。」     | 「あります」「います」の基本文型を話す。                          |
| 10 | 「約束がありません。」    | 「ありません」「いません」の基本文型を話す。                        |
| 11 | 「会社はどこにありますか。」 | 位置、場所の表現について理解する。                             |
| 12 | 「週末は何をしますか。」   | 基本動詞について理解し、話す。                               |
| 13 | 「週末は何を作りますか。」  | 「です・ます型」、「並列」を理解する。                           |
| 14 | フリートーキング       | 今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。                         |
| 15 | まとめ            | 今まで学んだ文法のまとめ。                                 |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 韓国語（初級）                                    | 科目ナンバリング | NCOS21008 |
| 担当者氏名                     | 高 秀美                                       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

| 週  | テーマ            | 学習内容など  |
|----|----------------|---|
| 1  | 韓国と韓国語について     | 韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について              |
| 2  | 基本母音・子音・平音     | ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。                        |
| 3  | 激音と濃音          | 日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。 |
| 4  | パッチム           | パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。                    |
| 5  | 合成母音           | 合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。                       |
| 6  | 挨拶／「私は日本人です。」  | 「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。             |
| 7  | 「日本人ではありません。」  | 「～ではありません」という基本文型について理解する。                    |
| 8  | 「それは何ですか。」     | 日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。            |
| 9  | 「約束があります。」     | 「あります」「います」の基本文型を話す。                          |
| 10 | 「約束がありません。」    | 「ありません」「いません」の基本文型を話す。                        |
| 11 | 「会社はどこにありますか。」 | 位置、場所の表現について理解する。                             |
| 12 | 「週末は何をしますか。」   | 基本動詞について理解し、話す。                               |
| 13 | 「週末は何を作りますか。」  | 「です・ます型」、「並列」を理解する。                           |
| 14 | フリートーキング       | 今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。                         |
| 15 | まとめ            | 今まで学んだ文法のまとめ。                                 |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 韓国語（中級）                                    | 科目ナンバリング | NCOS21009 |
| 担当者氏名                     | 李 良姫                                       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
  - 2) 課題等の提出物20%
  - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

| 週  | テーマ               | 学習内容など                              |
|----|-------------------|-------------------------------------|
| 1  | 初級の復習             | 初級で学んだ内容を復習する。                      |
| 2  | 挨拶                | 韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。 |
| 3  | 「お名前は？」           | 敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。           |
| 4  | 「そんなに遠くありません。」    | 形容詞について理解できる。                       |
| 5  | 「いつきますか。」         | 漢数詞について理解できる。                       |
| 6  | 「今日は雨が降りますね。」     | 感嘆・同感の表現できる。                        |
| 7  | 「釜山までどうやっていきますか。」 | へヨ体が使えらる。                           |
| 8  | 「何時からですか。」        | 固有語数詞が話せる。                          |
| 9  | 「私は毎朝、8時に起きます。」   | 「私の一日」「スケジュール」が作成できる。               |
| 10 | 「いつ日本にきましたか。」     | 過去形が使えらる。                           |
| 11 | 「キムチが美味しかったよ。」    | 過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。              |
| 12 | 「今、学校の前にいますか。」    | 位置、場所の表現ができる。                       |
| 13 | 韓国語能力試験について       | 韓国語能力試験の構成について理解できる。                |
| 14 | フリートーキング          | 今まで学んだ文法を使つての会話ができる。                |
| 15 | まとめ               | 今まで学んだ文法をまとめる。                      |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 韓国語（中級）                                    | 科目ナンバリング | NCOS21009 |
| 担当者氏名                     | 高 秀美                                       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《授業計画》

| 週  | テーマ               | 学習内容など                              |
|----|-------------------|-------------------------------------|
| 1  | 挨拶                | 韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。 |
| 2  | 初級の復習             | 初級で学んだ内容を復習する。                      |
| 3  | 「お名前は？」           | 敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。           |
| 4  | 「そんなに遠くありません。」    | 形容詞について理解できる。                       |
| 5  | 「いつきますか。」         | 漢数詞について理解できる。                       |
| 6  | 「今日は雨が降りますね。」     | 感嘆・同感の表現できる。                        |
| 7  | 「釜山までどうやっていきますか。」 | へヨ体が使える。                            |
| 8  | 「何時からですか。」        | 固有語数詞が話せる。                          |
| 9  | 「私は毎朝、8時に起きます。」   | 「私の一日」「スケジュール」が作成できる。               |
| 10 | 「いつ日本にきましたか。」     | 過去形が使える。                            |
| 11 | 「キムチが美味しかったよ。」    | 過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。              |
| 12 | 「今、学校の前にいますか。」    | 位置、場所の表現ができる。                       |
| 13 | 韓国語能力試験について       | 韓国語能力試験の構成について理解できる。                |
| 14 | フリートーキング          | 今まで学んだ文法を使っての会話ができる。                |
| 15 | まとめ               | 今まで学んだ文法をまとめる。                      |

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

|                           |   |       |          |           |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | コンピュータ演習  |       | 科目ナンバリング | NCOS11010 |
| 担当者氏名                     | 湯瀬 晶文、沖野 光二   |       |          |           |
| 授業方法                      | 演習  | 単位・必選 | 2・必修     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）<br>○ 基教-G 論理的思考力 |       |          |           |

《授業の概要》

コンピューティング環境は私たちの社会に不可欠なものになっており、このことは大学での勉学においても同様である。授業では、「コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面でコンピュータが有用であるか」を少しでも身につけることを目指しつつ、コンピュータの基本的な操作方法と様々なアプリケーションの基礎を演習する。なお、内容は大学の設備や講義の進捗状況等により、変更することもある。

《授業の到達目標》

この演習では、コンピュータの基礎的な知識や能力（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分、あるいは、今後受講することになる専門科目などで必要となるコンピュータに関する知識や技能の基礎を身につけることを目標とする。とりわけいくつかのソフトウェア環境において、基礎的な作業を自力で行えるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の授業・課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（100%）。内容に質問があれば、授業中はもちろんオフィスアワー等でも受け付ける。なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など   |
|----|------------------|--|
| 1  | オリエンテーション        | コンピュータ演習の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明を行う。（成績評価に関する項目もあり大切なので履修希望者は必ず出席のこと） |
| 2  | 環境設定             | 演習教室の利用環境の設定を行う。<br>コンピュータ利用の準備。   |
| 3  | 電子メールの設定とタイピング練習 | 電子メール環境の設定を行う。<br>電子メールの操作方法を知る。   |
| 4  | 操作の基礎            | タイピングとその練習。<br>ファイルとテキストファイルについて知る。                                      |
| 5  | 基礎の確認            | コンピュータ操作の基礎的な知識の確認。<br>課題ファイルのやり取りについて知る。                                |
| 6  | 簡単な情報検索          | 検索における論理演算の基礎について知る。<br>情報検索の基礎を知り、簡単な情報検索を行う。                           |
| 7  | ワープロソフト（1）       | ワープロソフトと画像ソフトの基本を知る。<br>テキストエディタを利用する。                                   |
| 8  | ワープロソフト（2）       | アプリケーションソフトの連携について知る。<br>ワープロソフトを利用するとともに、プリントアウトについて知る。                 |
| 9  | プレゼンテーションソフト（1）  | プレゼンテーションソフトの基本を知る。<br>ワープロソフトとの違いを知り、書き換えを行う。                           |
| 10 | プレゼンテーションソフト（2）  | テーマを決めてプレゼンテーションソフトを利用する。  |
| 11 | プレゼンテーションソフト（3）  | プレゼンテーションソフトを用いて発表用スライドを作成する。<br>他のアプリケーションソフトとの連携について知る。                |
| 12 | 表計算ソフト（1）        | 表計算ソフトの基本操作を知る。  |
| 13 | 表計算ソフト（2）        | 表計算ソフトにおける数式や関数についての基本を知る。<br>表計算ソフトと他のアプリケーションソフトとの連携について知る。            |
| 14 | 総合演習（1）          | 実際のプレゼンテーションとその手順について知る。   |
| 15 | 総合演習（2）          | プレゼンテーションとその評価。<br>コンピュータ演習のまとめ。   |

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。  
詳細は初回授業時に説明する。

《参考図書》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経BP社  
 『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店  
 『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経BP社  
 『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版  
 「コンピュータリテラシ」、「オフィスソフト」についての各種解説書 その他授業中に適宜案内

《授業時間外学習》

毎回のように課題があるので、時間をかけて取り組む必要がある。  
授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。実際にどういった操作をすればどのような反応を示すのかを注意深く観察して下さい。そうすれば上達も早くなることでしょう。

|                           |   |       |          |           |       |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|-------|
| 科目名                       | コンピュータ演習  |       | 科目ナンバリング | NCOS11010 |       |
| 担当者氏名                     | 河野 稔  |       |          |           |       |
| 授業方法                      | 演習  | 単位・必選 | 2・必修     | 開講年次・開講期  | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）<br>○ 基教-G 論理的思考力 |       |          |           |       |

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。  
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。  
 なお、提出課題と提出物にはルーブリック等を用いて評価をフィードバックするとともに、わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

| 週  | テーマ             | 学習内容など                                |
|----|-----------------|---------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション       | 授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／コンピュータ実習室の利用  |
| 2  | 学内ネットワークシステムの利用 | 学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用         |
| 3  | インターネット(1)      | インターネットとコミュニケーション                     |
| 4  | インターネット(2)      | インターネットと情報検索                          |
| 5  | インターネット(3)      | ウェブの最新トピック、情報倫理                       |
| 6  | プレゼンテーション(1)    | 文字による基本的なプレゼンテーションの作成                 |
| 7  | プレゼンテーション(2)    | 図やアニメーションを利用したスライドの作成／プレゼンテーションのまとめ課題 |
| 8  | 文書作成(1)         | レポート形式の文書による基礎的な文書の作成                 |
| 9  | 文書作成(2)         | 文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題              |
| 10 | データ処理(1)        | 表形式データの簡単な処理とグラフ作成                    |
| 11 | データ処理(2)        | 関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題          |
| 12 | 総合的な演習(1)       | 情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成                 |
| 13 | 総合的な演習(2)       | 情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開         |
| 14 | 総合的な演習(3)       | プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成                |
| 15 | 総合的な演習(4)／まとめ   | 相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り                  |

《テキスト》

- 毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- 配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

- 矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『(新課程) インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。修得した利用方法を他の授業でも生かせるように、日ごろからパソコンを利用する機会をつくりましょう。  
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | コンピュータグラフィックスの基礎                                     |       | 科目ナンバリング | NCOS12011 |
| 担当者氏名                     | 稲富 恭、佐竹 邦子   |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） |       |          |           |

《授業の概要》

デザインは従来、専門職（デザイナー）が行う分野であったが、近年のデザイン用ソフトウェアの普及に伴い、社会人に求められる能力のひとつになりつつある。本授業では、初心者を対象にグラフィックソフトウェア（Adobe社）の操作について学ぶとともに、それらを用いた作品制作を行い、デザイン基礎力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

《参考図書》

宮川修、鈴木貴子：「実践力を身につける Photoshop+Illustrator 集中講座」, マイナビ

《授業の到達目標》

- ・ Adobe Photoshop、Illustrator、InDesign 等の基礎的操作を習得する
- ・ 案内チラシ、プレゼンテーションパネル等のデザインに必要な基礎的能力を身につける

《授業時間外学習》

予習：シラバスを参考に課題制作に必要な資料を収集する。  
 復習：未完成課題の制作を行う。授業内容を元に操作の習熟につとめ、自主的に作品制作を行う。

《成績評価の方法》

- ・ 提出されたデザイン課題によって成績を評価する。
- ・ 課題は提出後、講評を行う。
- ・ 評価の内訳は、操作の習熟度に関する評価（50%）、デザインに関する評価（50%）とする。

《備考》

・ 教室設備の都合により、受講者の定員は20名である。希望者が定員を超える場合、1回目の授業で抽選を行う。またその場合、2回目の授業からの受講はできない。

《授業計画》

| 週  | テーマ                  | 学習内容など  |
|----|----------------------|---|
| 1  | ガイダンス                | ビジネススキルとして求められるデザインスキルについて理解する。※受講者が定員を超える場合は抽選を行う。                 |
| 2  | Illustratorの基本的操作(1) | Illustratorの基本操作、文字、オブジェクトの作成、レイヤーの操作について理解する。〈課題〉案内地図を作成する。        |
| 3  | Illustratorの基本的操作(2) | オフセット印刷、特色印刷について理解する。名刺をデザインする。                                     |
| 4  | Illustratorの基本的操作(3) | ベジェ曲線等の操作について理解する。ロゴの制作を行う。   |
| 5  | Photoshopの基本的操作(1)   | 画像データの形式、Photoshopの基本操作、写真の補正、加工について理解する。持参した写真の加工を行う。              |
| 6  | Photoshopの基本的操作(2)   | プレゼンテーション・スライドの作成を前提とした画像データの作成を行う。パワーポイントのスライドを作成する。               |
| 7  | ポストカードの制作            | Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。季節のポストカードをデザインする。         |
| 8  | 二つ折りパンフレットの作成(1)     | パンフレットのデザインを行う。デザインバリエーションを検索し、手書きスケッチによるエスキスを行う。                   |
| 9  | 二つ折りパンフレットの作成(2)     | Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。エスキスをもとに、パンフレットのデザインを行う。  |
| 10 | プレゼンテーションパネルの作成(1)   | Excel等の数的データの変換、加工について理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。 |
| 11 | プレゼンテーションパネルの作成(2)   | レイアウトのバリエーションについて理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。      |
| 12 | イベント告知チラシの作成(1)      | 実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。                               |
| 13 | イベント告知チラシの作成(2)      | 実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。                               |
| 14 | イベント告知チラシの作成(3)      | イベント告知チラシのプレゼンテーション、講評を行う。  |
| 15 | 習熟度確認のための作品制作        | 授業時間内に与えられた課題の制作を行う。  |



《共通教育科目 国際理解》

|                           |   |       |          |           |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 国際理解と宗教 I (キリスト教)   |       | 科目ナンバリング | NINL21001 |
| 担当者氏名                     | 野世 英水   |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

キリスト教は世界宗教として国際社会のさまざまな問題と深くかかわっている。この講義ではキリスト教の基礎を学ぶとともに、現代の国際社会におけるいくつかの問題を取り上げ、それら問題とキリスト教とのかかわりについて考えていくこととしたい。そこでは国際社会の諸問題をキリスト教という宗教より見ていくとき、また新たな視野がひろがっていくことに気づかされるであろう。

《授業の到達目標》

- ・キリスト教の教えや歴史の基礎を理解できるようになる。
- ・国際社会の諸問題についての認識を深め、それら諸問題とキリスト教とのかかわりについて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

授業参加態度20%、ビデオ鑑賞後のレポート10%、期末試験70%

※質問、意見等を書いてもらい次回授業時に答える。

《テキスト》

講義時に必要なプリント等を配布する。

《参考図書》

『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002。  
その他講義時に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業終了後、毎回ノートや配布資料をを整理し、内容を理解する。
- ・キリスト教の聖書を手にし読んでみる。

《備考》

シラバスにそって授業をすすめますが、受講生の理解度によって変更することもあります。

《授業計画》

| 週  | テーマ                | 学習内容など   |
|----|--------------------|--|
| 1  | キリスト教と世界の諸宗教(1)    | キリスト教の世界の諸宗教のなかでの位置づけ。キリスト教の国際的な分布。            |
| 2  | キリスト教と世界の諸宗教(2)    | カトリック、プロテスタント、東方正教会などのキリスト教教会の展開。キリスト教の宗教上の分類。 |
| 3  | キリスト教との出会い(1)      | キリスト教とは。イエス・キリストとは。旧約聖書と新約聖書。聖書のなかの神。          |
| 4  | キリスト教との出会い(2)      | イエス・キリストの生涯。                                   |
| 5  | キリスト教と国際平和(1)      | 国際社会と平和。平和と暴力。キリスト教の平和思想。                      |
| 6  | キリスト教と国際平和(2)      | キリスト教の正戦論。戦争とドイツキリスト教会、日本キリスト教会。               |
| 7  | キリスト教と国際平和(3)      | イスラームの平和思想、仏教の平和思想との比較。                        |
| 8  | キリスト教とホスピスケア(1)    | キリスト教とターミナルケア、ホスピスムーブメント。                      |
| 9  | キリスト教とホスピスケア(2)    | キリスト教における生と死。イスラーム、仏教の生死観との比較。                 |
| 10 | キリスト教の愛の実践ーマザー・テレサ | キリスト教の国際支援。マザー・テレサの愛の実践活動。ビデオ鑑賞。               |
| 11 | キリスト教とジェンダー(1)     | ジェンダーとフェミニズム。キリスト教のジェンダー問題。                    |
| 12 | キリスト教とジェンダー(2)     | キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。                       |
| 13 | キリスト教と民族紛争・地域紛争(1) | キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。                       |
| 14 | キリスト教と民族紛争・地域紛争(2) | 国際社会と原理主義。キリスト教原理主義とイスラーム原理主義。                 |
| 15 | 15 学習のまとめ          | 国際社会の諸問題とキリスト教。キリスト教を通じた国際理解のありかた。             |

|                           |   |       |          |           |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）   |       | 科目ナンバリング | NINL21002 |
| 担当者氏名                     | 重親 知左子  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリムの訪日人数や国内のモスク(イスラームの礼拝所)も増加し、今後内外でムスリムと出会う機会は多くなる。この授業を通して、イスラームに関する基本的な内容を把握し、この宗教をめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。ドキュメンタリーを中心に、VTRも毎回視聴する。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラームに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・レポートに書かれた質問への回答や講評は、可能な限り授業時間内に行う。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など   |
|----|------------------|--|
| 1  | 世界と日本のイスラーム      | 今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。             |
| 2  | イスラームの成立と発展      | イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。                   |
| 3  | イスラームの基本的信仰内容(1) | イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。            |
| 4  | イスラームの基本的信仰内容(2) | 基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。                              |
| 5  | イスラームの信仰行為(1)    | 信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。                               |
| 6  | イスラームの信仰行為(2)    | 信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。                                     |
| 7  | 日常生活の中のイスラーム(1)  | 飲食におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラーム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。 |
| 8  | 日常生活の中のイスラーム(2)  | 服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。      |
| 9  | 日常生活の中のイスラーム(3)  | 結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。                                   |
| 10 | 日常生活の中のイスラーム(4)  | 離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。                            |
| 11 | イスラーム圏の映画鑑賞      | イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。                         |
| 12 | 国際理解とイスラーム(1)    | 経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。                        |
| 13 | 国際理解とイスラーム(2)    | 政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。              |
| 14 | 国際理解とイスラーム(3)    | イスラームをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。            |
| 15 | 日本とイスラーム         | 日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。                                    |

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

- 小川忠『インドネシア イスラーム大国の変貌 躍進がもたらす新たな危機』新潮社、2016  
 後藤絵美『神のためにまとうヴェール 現代エジプトの女性とイスラーム』中央公論新社、2014  
 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社、2016

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ(例：モスクやハラールショップ見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・出席登録直後の退出は、原則的に認めない。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

|                           |       |  |          |           |       |
|---------------------------|-------|--|----------|-----------|-------|
| 科目名                       | 国際関係論 |  | 科目ナンバリング | NINL21003 |       |
| 担当者氏名                     | 斎藤 正寿 |  |          |           |       |
| 授業方法                      | 講義    | 単位・必選  | 2・選択     | 開講年次・開講期  | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul> |          |           |       |

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

| 週  | テーマ          | 学習内容など           |
|----|--------------|------------------|
| 1  | イントロダクション    | 講義の進め方、19世紀の概観   |
| 2  | 前史・帝国主義時代（1） | 19世紀末の世界状況       |
| 3  | 帝国主義時代（2）    | 列強による世界分割        |
| 4  | 帝国主義時代（3）    | アジアの近代           |
| 5  | 第1次世界大戦（1）   | 列強の対立・再編         |
| 6  | 第1次世界大戦（2）   | 開戦・終戦処理          |
| 7  | 戦間期の時代（1）    | ヴェルサイユ体制         |
| 8  | 戦間期の時代（2）    | ワシントン体制          |
| 9  | 第2次世界大戦（1）   | 世界恐慌、ファシズムの台頭    |
| 10 | 第2次世界大戦（2）   | 極東の危機、日中戦争       |
| 11 | 第2次世界大戦（3）   | ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争 |
| 12 | 冷戦構造（1）      | 戦後処理、米ソ対立        |
| 13 | 冷戦構造（2）      | 中東戦争、ベトナム戦争      |
| 14 | 第3世界の台頭      | 脱植民地化、低開発、資源     |
| 15 | ポスト冷戦の世界     | 社会主義の崩壊、民族紛争の激化  |

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 比較文化論   | 科目ナンバリング | NINL21004 |
| 担当者氏名                     | 本多 彩  |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

この社会に生きている私たちは、様々な背景を持った人や多様な文化や社会とつながっています。本講義では自文化を知るとともに文化の多様性を学び他者理解を深めます。アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験豊富な教員がオムニバスで講義を行います。いろいろな文化や社会があることを知り進むグローバル化の中で他者、他文化への理解を促進しましょう。

《授業の到達目標》

- ・自文化についての理論を学び海外の多様な文化や社会について理解を深め、説明することができる。
- ・兵庫大学が行っている海外研修や提携大学学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%  
 受講態度（授業への積極的な参加）50%  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ         | 学習内容など  |
|----|-------------|---|
| 1  | 比較文化論概説（1）  | 「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考え説明することができる。                           |
| 2  | 比較文化論概説（2）  | 文化を比較するとはどういうことかを考え、自文化に関するいくつかの理論を学び比較文化の視点から説明することができる。     |
| 3  | アジアの文化（1）   | 本学が交流しているタイの文化や社会について学び説明することができる。                            |
| 4  | アジアの文化（2）   | 本学が交流している韓国の社会について学び説明することができる。                               |
| 5  | アジアの文化（3）   | 本学が交流している韓国の文化について学び説明することができる。                               |
| 6  | ヨーロッパの文化（1） | 本学が交流しているドイツの文化や社会について学び説明することができる。                           |
| 7  | ヨーロッパの文化（2） | 本学が交流しているフィンランドの文化や社会について学び説明することができる。                        |
| 8  | 北アメリカの文化（1） | アメリカの大学システムや学生の学びについて理解し説明することができる。                           |
| 9  | 北アメリカの文化（2） | 本学が交流しているアメリカの文化について学び説明することができる。                             |
| 10 | 北アメリカの文化（3） | 本学が交流しているアメリカの社会について学びを深め説明することができる。                          |
| 11 | 北アメリカの文化（4） | アメリカの民族的マイノリティについて学び説明することができる。                               |
| 12 | 南アメリカの文化    | 本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学び説明することができる。                  |
| 13 | 兵庫大学の国際交流   | 本学の国際交流プログラムに参加した学生や国際交流にかかわる人との交流を通して、国際交流とは何かについて考え意見をまとめる。 |
| 14 | 学習のまとめ（1）   | 各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことを整理してまとめる。                      |
| 15 | 学習のまとめ（2）   | 授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について関心を持ったテーマに沿って発表する。                     |

|                           |      |  |          |           |       |
|---------------------------|------|--|----------|-----------|-------|
| 科目名                       | 歴史学  |  | 科目ナンバリング | NHIL21001 |       |
| 担当者氏名                     | 金子 哲 |  |          |           |       |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選  | 2・選択     | 開講年次・開講期  | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力</li> <li>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul> |          |           |       |

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナール歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。学期末のペーパーテストを60パーセントとします。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし。  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

《授業計画》

| 週  | テーマ       | 学習内容など                             |
|----|-----------|------------------------------------|
| 1  | はじめに      | 講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。         |
| 2  | 創られた伝統1   | 夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！          |
| 3  | 創られた伝統2   | 「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？        |
| 4  | 創られた伝統3   | 母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。             |
| 5  | 自由への賛歌1   | 近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。 |
| 6  | 自由への賛歌2   | 市と自由1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。           |
| 7  | 自由への賛歌3   | 市と自由2。縁切りと変身の原理。                   |
| 8  | 自由への賛歌4   | 変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。                |
| 9  | 自由への賛歌5   | スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理1。          |
| 10 | 自由への賛歌6   | スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理2。          |
| 11 | 小さな神仏の世界1 | 来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。          |
| 12 | 小さな神仏の世界2 | 背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。             |
| 13 | 小さな神仏の世界3 | 暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。    |
| 14 | 総括1       | 各項目間の関連の確認。                        |
| 15 | 総括2       | 全体のまとめ。                            |

《共通教育科目 歴史と文化》

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 文学  | 科目ナンバリング | NHIL21002 |
| 担当者氏名                     | 野田 直恵   |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

文学作品は書き手がことばによって構築する芸術だが、ことば自体が流動的なものであることから、その作品は必然的にさまざまな読み手の目に映じるものとなる。また、読み手が置かれた状況によっても作品は姿を変える。その変容ゆえに作品が読み手にもたらすものを見だし、文学と人との関係を考察する。

《テキスト》

プリントを適宜配付する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

作品に用いられたことばの意味やそれを書き手が選んだ理由・背景を探ることを通じ、作品やそのことばを生み出した文化についての知見を広める。作品について自分なりの見解を持つようにする。文学全般についての知識を深める。

《授業時間外学習》

プリントの内容に即した小テストなどを、実施日・範囲を予告のうえ実施するので、復習は必須である。また、授業時の発問に対応できるよう、指定範囲の予習をしておくこと。予習の成果が認められる場合には、平常点を加点する可能性がある。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テストなどの課題（50%）と定期試験（50%）によって評価する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

中学・高校で使った文学史の教科書や参考書、国語便覧などがあれば、そのうちの1～2種類を初回の授業時に持参してください（どんなものでも可）。

《授業計画》

| 週  | テーマ                  | 学習内容など  |
|----|----------------------|---|
| 1  | 授業全般についての説明          | 授業のすすめ方や小テストなどの課題について説明する。  |
| 2  | 「国語」と文学の違い<br>文学とは何か | 高等学校までの「国語」という教科における文学作品の読み方が私たちにもたらしているものについて説明し、文学のあり方を考察する。                |
| 3  | 日本文学の概観<br>日本語の起源    | 日本文学の流れと、その表記に用いられる日本語の起源とについて概説する。   |
| 4  | 神話と歴史                | 『古事記』や『日本書紀』といった奈良時代の文学作品に見られる特質や、それらが後世に及ぼした影響について概説し、実際に作品の一部にふれてみる。        |
| 5  | 詩歌の変遷（歌について）         | 『万葉集』から『新古今集』までの歌の変遷についておもに概説し、実際にいくつかの作品にふれてみる。                              |
| 6  | 物語と日記                | 平安時代の物語文学の発展について概説し、実際に作品の一部にふれることを通じて物語と日記との差異について考察する。                      |
| 7  | 女性文学 1               | 女性による文学作品が生まれた文化的背景について概説する。また、女性による古典作品にふれてみる。                               |
| 8  | 女性文学 2               | 女性による近代文学作品の一部にふれ、女性にとっての創作の意義を考察する。  |
| 9  | 文学と宗教                | 日本文学における仏教の影響について概説し、鎌倉時代の文学に見られる特質について、実際に作品の一部にふれながら考察する。                   |
| 10 | 娯楽としての文学             | 庶民たちのあいだで広まり、受け継がれていった文学について概説し、作品の一部にふれてみる。                                  |
| 11 | 教育と出版                | 明治時代になって一般の人々が読み書きの能力を身につけるようになったことと、社会の流れとの関係について概説し、教育が文学にもたらした影響について考察する。  |
| 12 | 文明開化の光と影             | 日本文化が西洋文化との接触によってどのような影響を受け、それが明治～大正時代の文学にどのように反映したのかを概説する。また、実際に作品の一部にふれてみる。 |
| 13 | 作家と留学                | 日本の近代という時代に夏目漱石や森鷗外らが与えた影響について、彼らの作品の一部にふれながら概説する。                            |
| 14 | 文学史的区切り              | 昭和時代における文学の変遷について概説し、近代文学と現代文学との境界をどのようにとらえるべきかを考察する。                         |
| 15 | 作品と出会う               | 限られた時間の中で限られた作品しか読めない私たちが、作品とどのように出会い、どのように向き合えばよいのかということについて考察する。            |

《共通教育科目 歴史と文化》

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 芸術  | 科目ナンバリング | NHIL21003 |
| 担当者氏名                     | 岩見 健二   |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

※各作家の芸術作品について感想・意見を述べさせ、それに対して講評を行う。

《備考》

特になし

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など  |
|----|------------------|---|
| 1  | オリエンテーション        | 学習の内容・目的を理解する。                                    |
| 2  | 佐伯祐三とブラマンク       | 大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。 |
| 3  | 古代⇒ルネッサンス        | 西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。                           |
| 4  | ルネッサンス⇒印象派       | 西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。                           |
| 5  | 印象派⇒現代           | 西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。                           |
| 6  | ジョット             | 中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。              |
| 7  | ヴェロネーゼ           | 宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。                      |
| 8  | カラヴァッジョ          | リアルとは何かを理解することができる。                               |
| 9  | ハルスとレンブラント       | 市民と画家との関係について理解することができる。                          |
| 10 | ゴヤ               | ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。                         |
| 11 | ダヴィッド・アングル・ドラクロア | 政治と画家との関係について理解することができる。                          |
| 12 | クールベとマネ          | ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる         |
| 13 | モネとセザンヌ          | 印象派の絵画理論について理解することができる。                           |
| 14 | エゴン・シーレ          | 人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。                     |
| 15 | 岩見健二             | 自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる                     |

《共通教育科目 歴史と文化》

|                           |         |  |          |           |       |
|---------------------------|---------|--|----------|-----------|-------|
| 科目名                       | 色彩とデザイン |  | 科目ナンバリング | NHIL21004 |       |
| 担当者氏名                     | 稲富 恭    |  |          |           |       |
| 授業方法                      | 講義      | 単位・必選  | 2・選択     | 開講年次・開講期  | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul> |          |           |       |

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産活動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを“色”、“かたち”、“素材”の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度、3回目以降の授業以降使用する。)

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野における一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法: 授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

| 週  | テーマ                   | 学習内容など  |
|----|-----------------------|---|
| 1  | デザインの基礎(1):かたち        | デザインの要素である“色”、“かたち”、“素材”について理解する。“かたち”について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。 |
| 2  | デザインの基礎(2):素材         | デザインの素材について、椅子のデザインを例に材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。                        |
| 3  | デザインの基礎(3):色彩の基礎      | 光と色の関係、色の三属性について理解する。配色カードを利用し、色相環を作成する。                                      |
| 4  | デザインの基礎(4):色彩の表現      | 色の分類、表色系、PCCSについて理解する。配色カードを利用し、等色相面を作成する。                                    |
| 5  | デザインの基礎(5):色彩と心理      | 言葉による色表示、色彩と心理の関係について理解する。配色カードを利用しトーン表を作成する。                                 |
| 6  | デザインの基礎(6):デザインの歴史    | アーツ・アンド・クラフツからモダニズムに至る19世紀以降のデザインの歴史について概観する。                                 |
| 7  | デザインの各分野(1):建築        | 実用的価値、美的価値、社会的価値といった側面から建築のデザインについて理解する。                                      |
| 8  | デザインの各分野(2):ファッションの歴史 | 20世紀以降のファッションの系譜について解説し、社会の変化とデザインの間わりについて理解する。                               |
| 9  | デザインの各分野(3):ファッションと配色 | ファッションの色彩調和とその手法について解説する。配色カードを利用し、ファッションの配色パターンを作成する。                        |
| 10 | デザインの各分野(4):映像        | 映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。   |
| 11 | デザインの各分野(5):都市        | 都市のデザインを社会状況・政治体制、産業・エネルギーといった側面から考察する。※学期末レポートの課題を説明する。                      |
| 12 | デザインの各分野(6):和風デザイン    | 和風のデザインについて真・行・草といった側面から考察する。   |
| 13 | デザインの各分野(7):デザインと地域性  | デザインと地域特性の関係について、アメリカ、南欧、北欧のデザインを例に考察する。                                      |
| 14 | デザインと配色               | 各デザイン分野における配色パターンと効果について考察する。配色カードを利用し、配色パターンの作成を行う。                          |
| 15 | 課題の発表と講評              | 学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。   |



《共通教育科目 地域に学ぶ》

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 地域文化論   | 科目ナンバリング | NL0L21001 |
| 担当者氏名                     | 金子 哲  |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

| 週  | テーマ             | 学習内容など   |
|----|-----------------|--|
| 1  | はじめに            | 講義の全体像の提示。考え方の提示。                                      |
| 2  | 考現学的アプローチ1      | 現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。                         |
| 3  | 考現学的アプローチ2      | 「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。                        |
| 4  | アジアの中で日本を考えてみよう | 日本は大国か？小国か？日本は「単一民族国家」なのか？日本文化は均質なのか？などなど、社会常識を再検討する。  |
| 5  | 東は東、西は西         | 日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。                         |
| 6  | 歴史的アプローチ1       | 日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。 |
| 7  | 歴史的アプローチ2       | 播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。               |
| 8  | 歴史的アプローチ3       | 播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。                         |
| 9  | 歴史的アプローチ4       | 播磨、特に東播の文化財を考察する。                                      |
| 10 | 歴史的アプローチ5       | 播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。                        |
| 11 | 文化論的アプローチ1      | 播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。                                 |
| 12 | 文化論的アプローチ2      | 播磨、特に東播の「芸能」を考察する。                                     |
| 13 | 文化論的アプローチ3      | 播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。                                  |
| 14 | 文化論的アプローチ4      | 播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。                                   |
| 15 | おわりに            | 全体の総括。   |

《テキスト》

なし  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。  
原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。  
できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 建築デザインと地域  |       | 科目ナンバリング | NL0L21002 |
| 担当者氏名                     | 稲富 恭   |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |       |          |           |

《授業の概要》

建築・土木構造物(以下、建築)は気候、歴史、宗教、産業といった多くの要素と密接に関係している。本講義では、兵庫県内の建築を通じて、地域社会、地域文化について学びます。

《テキスト》

テキストは用いない。適宜、資料を配付する。

《参考図書》

「昔も今もこれからも 兵庫を築く」兵庫県建設業協会, 2013

《授業の到達目標》

- ・ 建築のデザインに関する基礎的知識を身につける。
- ・ 建築の理解をを通じて、兵庫県の歴史、文化、産業について理解する。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・ 復習の方法: 授業ノートを制作する。
- ・ 学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・ 出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

| 週  | テーマ               | 学習内容など   |
|----|-------------------|--|
| 1  | ガイダンス             | 兵庫県の建築・土木構造物(以下、建築)について概観する。建築と地域環境の関わりについて理解する。         |
| 2  | 古代の兵庫県と人々のくらし     | 大中遺跡、五斗長垣内遺跡、五色塚古墳等を取りあげ、縄文時代、弥生時代の建築と生活について理解する。        |
| 3  | 神道の成立と神社建築        | 長田神社、多田神社等を取りあげ、神道の成立と神社建築の系譜、神社がもつ社会的機能について考察する。        |
| 4  | 仏教の伝来と寺院建築        | 鶴林寺、浄土寺、朝光寺等を取りあげ、寺院建築の歴史と系譜、木造技術の発展について考察する。            |
| 5  | 幕藩体制と都市・城郭        | 姫路城等を取り上げ、兵庫県内に存在する江戸時代の城郭建築と都市の形成について理解する。              |
| 6  | 古民家の歴史と技術         | 箱木家住宅、三木家住宅等を例に、兵庫県の民家建築の歴史と形式について考察する。                  |
| 7  | 明治維新と欧米型ライフスタイル   | 異人館、外国人住宅等を例に欧米型住宅の影響と神戸の景観形成について解説する。                   |
| 8  | 西洋古典建築の系譜と神戸の近代建築 | ギリシア・ローマ建築の系譜について概観し、旧居留地の近代建築について理解する。                  |
| 9  | 阪神間モダニズム          | ライト、ヴォーリズ等を例にモダニズム建築の系譜について概観し、阪神間モダニズムについて理解する。         |
| 10 | 戦後の住宅政策と都市開発      | ポートアイランド、明舞団地等、戦後の大規模住宅開発を取りあげ、戦後の住宅政策について理解する。          |
| 11 | 地域の産業と土木構造物       | 加古川橋梁、布引ダム、明石海峡大橋等、兵庫県内の土木構造物を取りあげ、技術発展の歴史と構造手法について理解する。 |
| 12 | ポストモダニズム社会と建築     | F・ゲーリー、安藤忠雄等の建築を例に、ポストモダン建築の思想的背景と表現について考察する。            |
| 13 | 兵庫のまちなみとまちづくり     | 出石、龍野、篠山等の町並みを例に、兵庫のまちづくりと景観形成について考察する。                  |
| 14 | 阪神大震災と今後の防災       | 阪神大震災とその後の対応、今後起こりうる自然災害を取りあげ、建築、まちづくりの面から考察する。          |
| 15 | レポート発表            | 課題レポートの発表と講評を行う。   |

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 地域と文化財   |       | 科目ナンバリング | NL0L21003 |
| 担当者氏名                     | 金子 哲   |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

加古川エリアは文化財の宝庫です。その中の石造物を中心に、発見・評価・保存・活用する方法論を学びます。地域の新しい魅力を発見し、地域の未来に向けての「街創り」に関する視座の獲得を目指します。座学で各種石造物の評価方法・保存活用方法を学び、フィールドワークで実際に石造物の「発見」に挑戦します。拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採る実習も行います。歴史的石造物の拓本採りにも挑戦します。

《授業の到達目標》

- ・石造物を評価できる基礎的な知識と感覚を獲得する。
- ・石造物を保存活用するための基礎的な知識を獲得する。
- ・石造物を通して、待機の文化や歴史を再発見する視座を獲得する。
- ・拓本を採る初歩の技術を稼得する。
- ・地域の散策が10倍以上楽しくなり、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

考古学調査ハンドブック 5『石造文化財への招待』、坂詰 秀一 監修、石造文化財調査研究所 編集、ニューサイエンス社

《授業時間外学習》

日常的に、地域を散策してみてください。路傍にある身近な文化財（石造物など）を「発見」し、評価してください。次の講義で報告してくれたら嬉しいですよ。  
参考として示す「文化財的価値の高い文化財（石造物など）」を現地に足を運んで、積極的に観賞・評価してみてください。

《備考》

体を動かしながら楽しく進めましょう。天候等により、フィールドワーク等の日程は変更となることがあります。

《授業計画》

| 週  | テーマ            | 学習内容など  |
|----|----------------|---|
| 1  | ガイダンス          | 石造物の面白さ。石造物の価値。石造物をめぐる近年の動向。                            |
| 2  | 採拓実習 1         | 拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採ってみよう。水をシュシュとふりかけ、墨をつけてポンポン叩いてみよう。 |
| 3  | 中世石造物 1        | 五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 1                                    |
| 4  | 中世石造物 2        | 五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 2                                    |
| 5  | 中世石造物 3        | 板碑等その他石造物。素材石。龍山石                                       |
| 6  | 近世・近代石造物       | 近世力士墓。近代戦死将校兵の墓。など。                                     |
| 7  | フィールドワーク 1     | 大学の近くを散策して、石造物を「発見」しよう。                                 |
| 8  | フィールドワーク 2     | 加古川エリアを散策して、石造物を「発見」しよう。                                |
| 9  | 石造物保存          | 石造物保存の現状と問題点。   |
| 10 | 石造物と街おこし 1     | 石造物の観光資源化。保存と活用への市民の参画。                                 |
| 11 | フィールドワーク 3     | 石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状を確認。                                |
| 12 | 石造物と街おこし 2     | 石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状の問題点と改善策に関する討議。                     |
| 13 | 採拓実習 2         | 拓本採りに再挑戦。   |
| 14 | 採拓実習 3（フィールド編） | 歴史的石造物の実物で拓本を採ってみよう。                                    |
| 15 | おわりに           | 全体の総括。  |

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 地域資料を読む  |       | 科目ナンバリング | NL0L21004 |
| 担当者氏名                     | 金子 哲   |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

ミミズがのたうったような崩し字の解説、を目指す講義ではありません。絵図・地図を中心に、活字化された地域資料（史料）を読み進め、「昔の地域の姿」を探索する方法論を学びます。地域資料（史料）の現状、消失・流出の危機と、保存方法・保存活動の方法を模索します。現物の古文書にも触れ、感触を確かめ、読める字がないか探してみます。フィールドワークを通して、前近代の古文書の保管状態も見学します。

《授業の到達目標》

- ・地域資料（史料）を評価する初歩的能力を獲得する。
- ・地域資料（史料）の保存活用に関する基礎知識を獲得する。
- ・往年の地域の姿を復元する初歩的方法論を獲得する。
- ・地域資料（史料）読解能力の第一歩を獲得する。
- ・地域文化活動の中核となる能力感性の第一歩を獲得する。
- ・地域の一次資料（史料）を通し、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

『文献史料を読む—古代から近代』、青木 和夫・高木 昭作  
 佐藤 進一・坂野 潤治 編、朝日新聞社  
 『古地図で見る神戸—昔の風景と地名散歩』、大国 正美、神戸新聞総合出版センター

《授業時間外学習》

地域のどこに資料（史料）が保管・保存されるか、生活の中でそれとなく聞いてみて下さい。情報を得られたら、次の講義の際に発表して下さい。  
 時間に余裕があれば、博物館・郷土資料館などを見学してみてください。  
 また、復習も大切に。

《備考》

楽しくなるように工夫します。クイズ要素をちりばめ、フィールドワークも行います。頭と体を動かしましょう。天候等でフィールドワークスケジュールの変更があり得ます。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など                              |
|----|------------------|-------------------------------------|
| 1  | はじめに             | 全体のガイダンス。地域資料（史料）研究の楽しみに関して。        |
| 2  | 近世絵図・地図 1        | 近世加古川宿について1。絵図・地図からの復元1。            |
| 3  | 近世絵図・地図 2        | 近世加古川宿について2。絵図・地図からの復元2。            |
| 4  | フィールドワーク 1       | 加古川宿跡の探索。                           |
| 5  | 近世加古川エリアの地図・絵図 1 | 近世加古川地区の名所・寺社。                      |
| 6  | 近世加古川エリアの地図・絵図 2 | 近世加古川地区の用水路とため池。                    |
| 7  | フィールドワーク 2       | 博物館・資料館見学。                          |
| 8  | 近世文書に触れてみよう 1    | 現物の近世史料の扱い方と読解の第一歩。ため池絵図を中心に。       |
| 9  | 近世文書にふれてみよう 2    | 現物の近世文書の保存処理体験。                     |
| 10 | フィールドワーク 3       | 近世文書群の保存・保管状況の見学。                   |
| 11 | フィールドワーク 4       | 博物館・資料館の保管庫の見学。撮影資料等の見学。            |
| 12 | 地域資料（史料）保存の諸問題 1 | 地域資料（史料）の現状に関して。                    |
| 13 | 地域資料（史料）保存の諸問題 2 | 地域資料（史料）の保存・活用方法を模索する。特に、対行政問題を中心に。 |
| 14 | フィールドワーク 5       | 中世文書群の保存・保管状況の見学。実際に現物の中世文書に触れてみよう。 |
| 15 | おわりに             | 全体の総括。                              |

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 哲学  | 科目ナンバリング | NSOL21001 |
| 担当者氏名                     | 三浦 摩美                                     |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。  
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。  
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。  
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。  
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）および学期末に設定するレポート課題（70%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。  
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。  
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

| 週  | テーマ                         | 学習内容など   |
|----|-----------------------------|--|
| 1  | 哲学の創始<br>ソクラテス以前の哲学1.       | 哲学とは何かについて<br>ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について                            |
| 2  | 古代ギリシャの哲学思想<br>ソクラテス以前の哲学2. | ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について   |
| 3  | 古代ギリシャの哲学思想<br>ソクラテスとプラトン1. | アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について<br>問答法と真理の探究について                    |
| 4  | 古代ギリシャの哲学思想<br>プラトンの哲学2.    | プラトンのイデア説について  |
| 5  | 古代ギリシャの哲学思想<br>アリストテレスの哲学1. | アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について                                |
| 6  | 古代ギリシャの哲学思想<br>アリストテレスの哲学2. | アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について                          |
| 7  | 中世の哲学思想                     | アウグスティヌスの教父哲学について  |
| 8  | 中世の哲学思想                     | トマス・アクィナスのスコラ哲学について  |
| 9  | 近世の哲学思想<br>デカルトの哲学1.        | 精神および物体の概念について   |
| 10 | 近世の哲学思想<br>デカルトの哲学2.        | 心身二元論について  |
| 11 | 近世の哲学思想<br>カントの哲学1.         | カントの批判哲学—『純粋理性批判』について<br>ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について |
| 12 | 近世の哲学<br>カントの哲学2.           | カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則）<br>『判断力批判』について（自然の合目的性）         |
| 13 | 現代の哲学<br>生の哲学・実存主義哲学        | バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について                                     |
| 14 | 現代の哲学<br>プラグマティズムの哲学        | ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について                                       |
| 15 | まとめ                         | 予備およびまとめ   |

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 法と社会   | 科目ナンバリング | NSOL21002 |
| 担当者氏名                     | 豊福 一   |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

日常生活において問題となりうる典型的事例を法律的側面から解説します。実際の事例に基づいて解説します。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

実際に役立つ法的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート課題

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

| 週  | テーマ           | 学習内容など                                 |
|----|---------------|--|
| 1  | 法と社会の関わり（導入）  | 日本の法制度の歴史的沿革とその概要。                     |
| 2  | 土地と建物の賃貸借契約   | 土地や建物（住居）を賃借する場合の法律問題。                 |
| 3  | クレジット・キャッシング  | クレジットカードを利用した買い物やキャッシュカードを利用した借金の法律問題。 |
| 4  | 住宅ローン・自動車ローン① | 住宅の購入に際しての法律問題。                        |
| 5  | 住宅ローン・自動車ローン② | 住宅ローンや自動車ローンを組むまでの流れ、その仕組み。            |
| 6  | 債務の整理・清算      | 多額の負債を背負った場合の清算方法。                     |
| 7  | 刑事事件①         | 犯罪の容疑者が逮捕されるまでの流れ。                     |
| 8  | 刑事事件②         | 逮捕された容疑者が有罪判決を受けるまでの流れ。                |
| 9  | 婚姻・離婚         | 主に離婚時の法律問題。                            |
| 10 | 相続            | 相続人の範囲や法定相続分、その他相続制度の概要。               |
| 11 | 成年後見制度        | 主に高齢者で判断能力が低下した者の権利擁護制度の概要。            |
| 12 | 交通事故の法律関係     | 交通事故に遭遇した場合の法律問題。                      |
| 13 | 保険制度          | 損害保険、生命保険、火災保険の仕組みと注意点。                |
| 14 | 民事訴訟制度        | 刑事訴訟ではなく、民事訴訟制度の概要。                    |
| 15 | 知的財産制度        | 著作権、特許権等の知的財産制度の概要。                    |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 日本国憲法  | 科目ナンバリング | NSOL21003 |
| 担当者氏名                     | 笹田 哲男  |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。  
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

| 週  | テーマ         | 学習内容など   |
|----|-------------|--|
| 1  | 憲法とは何か      | ①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。                      |
| 2  | 日本の憲法のおいたち  | ①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。                            |
| 3  | 平和主義(1)     | ①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。       |
| 4  | 平和主義(2)     | 「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。                                   |
| 5  | 人権の性格と歴史(1) | ①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。        |
| 6  | 人権の性格と歴史(2) | 日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。  |
| 7  | 基本的人権の保障(1) | ①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。  |
| 8  | 基本的人権の保障(2) | 精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。         |
| 9  | 基本的人権の保障(3) | ①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。                  |
| 10 | 基本的人権の保障(4) | ①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。 |
| 11 | 基本的人権の保障(5) | ①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。   |
| 12 | 国民主権(1)     | ①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。                   |
| 13 | 国民主権(2)     | ①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。                         |
| 14 | 国民主権(3)     | ①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。           |
| 15 | まとめ         | これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。                             |

|                           |       |   |          |           |
|---------------------------|-------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 人権の歴史 |   | 科目ナンバリング | NSOL21004 |
| 担当者氏名                     | 岩本 智依 |   |          |           |
| 授業方法                      | 講義    | 単位・必選   | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 |       | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社  
 砂川秀樹・RYOJI 『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス  
 岩本孝樹 『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

なお質問とともに、定期試験やレポート等について事前添削を随時受け付ける。

《授業計画》

| 週  | テーマ        | 学習内容など  |
|----|------------|---|
| 1  | 差別とは何か     | 現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。                             |
| 2  | ライフタイムと人権  | 自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。                            |
| 3  | 人権の歴史とは①   | 人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。                       |
| 4  | 人権の歴史とは②   | 人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。                             |
| 5  | 部落差別と現代社会① | 部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。                            |
| 6  | 部落差別と現代社会② | 「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。                                |
| 7  | いのちと人権①    | ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。                        |
| 8  | いのちと人権②    | 障がい者差別の歴史と障害者差別解消法について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。               |
| 9  | いのちと人権③    | 尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。                    |
| 10 | 宗教と差別      | 主に仏教と差別について学ぶ。  |
| 11 | 教育と差別      | いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。 |
| 12 | 性差別と現代社会①  | 性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。                                     |
| 13 | 性差別と現代社会②  | セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。                           |
| 14 | 性差別と現代社会③  | セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。                                  |
| 15 | まとめ        | 現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。                            |



|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 政治学  | 科目ナンバリング | NSOL21005 |
| 担当者氏名                     | 斎藤 正寿  |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実に起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

| 週  | テーマ                     | 学習内容など                               |
|----|-------------------------|--------------------------------------|
| 1  | A. 素人の政治<br>小さな政治と大きな政治 | 政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学     |
| 2  | 制度・原理・状況                | 人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人 |
| 3  | ノモス・コスモス・カオス            | 社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス                |
| 4  | 権力と正統性                  | 権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性     |
| 5  | リーダーとフォロワー              | 権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得                 |
| 6  | B. 玄人の政治<br>様々なアクター・利益  | アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟               |
| 7  | 職業政治家                   | 地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党                    |
| 8  | 官僚                      | 国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低        |
| 9  | マスコミ                    | 世論、マスメディア、アナウンスメント効果                 |
| 10 | C. 政治の制度<br>政党と選挙       | 衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表               |
| 11 | 政治体制と政権                 | 保守・革新、右・左、                           |
| 12 | 政策・イデオロギー               | イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府           |
| 13 | 政治と文化                   | 体制の変動、政権の交代                          |
| 14 | 国家と国民                   | ナショナリズム、民族                           |
| 15 | まとめ                     | 日本政治の鳥瞰図                             |

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 社会学  |       | 科目ナンバリング | NSOL21006 |
| 担当者氏名                     | 吉原 恵子  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |       |          |           |

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○授業内レポート1-2回、ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点) ○定期試験により学習達成度を評価する。(配点：理論の理解度、データを読む力、社会問題についての理解、批判的視点等の獲得度55点) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

| 週  | テーマ                   | 学習内容など  |
|----|-----------------------|---|
| 1  | 社会的ものの見方              | 社会学の成立、個人と社会について理解する  |
| 2  | 行為の分析<br>(1) 意味と相互主観性 | 意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する                              |
| 3  | 行為の分析<br>(2) アイデンティティ | アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する                                  |
| 4  | 行為の分析<br>(3) スティグマ    | スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する  |
| 5  | 行為の分析<br>(4) 正常と異常    | 正常、異常、コンテクスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する   |
| 6  | 行為の分析<br>(5) 予言の自己成就  | 予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する                           |
| 7  | 行為の分析<br>(6) 社会構築主義   | 社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する                             |
| 8  | 学習の総まとめ (1)           | 「行為の分析」についてふりかえる  |
| 9  | 秩序の解説<br>(1) ジェンダー    | 性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する                                     |
| 10 | 秩序の解説<br>(2) 規範と制度    | 規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する                                     |
| 11 | 秩序の解説<br>(3) 社会のなかの権力 | 姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する   |
| 12 | 秩序の解説<br>(4) 不平等と正義   | 社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する              |
| 13 | 社会の構想<br>(1) 共同体      | 近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する |
| 14 | 社会の構想<br>(2) 国家と市民社会  | 個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する                         |
| 15 | 学習の総まとめ (2)           | 「秩序の解説」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する   |

|                           |  |          |           |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名                       | 経済学  | 科目ナンバリング | NSOL21007 |
| 担当者氏名                     | 石原 敬子  |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |  | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。毎時間提出する授業時の課題については、翌週の授業時に解答例の紹介とともに補足説明を行います。

《授業計画》

| 週  | テーマ                  | 学習内容など   |
|----|----------------------|--|
| 1  | 授業の概要<br>「経済学」とは     | 「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。                                |
| 2  | 市場のはたらきについて考えよう      | 経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。                |
| 3  | 交換の利益・分業の利益<br>協業の利益 | 私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。                 |
| 4  | 貨幣の歴史と役割             | 貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。              |
| 5  | IT革命がもたらしたもの         | 情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されているビッグデータの活用、高機能ロボットなどについても考察します。 |
| 6  | 企業戦略について考えよう (1)     | 「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。   |
| 7  | 企業戦略について考えよう (2)     | 身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。                               |
| 8  | 市場経済での競争の役割 (1)      | 競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。  |
| 9  | 市場経済での競争の役割 (2)      | 市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。  |
| 10 | 「市場の失敗」について考えよう (1)  | 市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。                  |
| 11 | 「市場の失敗」について考えよう (2)  | 地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。                            |
| 12 | 「市場の失敗」について考えよう (3)  | 食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。  |
| 13 | 景気の問題について考えよう        | マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。                                 |
| 14 | 少子高齢化問題について考えよう      | 少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。   |
| 15 | 学習のまとめ               | これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。  |

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 現代社会の理解  |       | 科目ナンバリング | NSOL21008 |
| 担当者氏名                     | 沖野 光二  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

公職選挙法(第9条)が2015年に改正され、年齢満18歳以上の者が選挙権を有し、政治への直接参加(民主主義的手続き)の権利を得ると同時に政治的帰結の責任を担うこととなった。さらに民法(第4条)を改正し、成年とする年齢を18歳に引き下げ、法律行為の能力を有するべく現在調整されている。社会との政治的・法的・経済的関わりについて、課題とそれを解決すべき行動手順(手続き方法)を学生自らが見い出せる能力を養う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

テーマ毎に関連する文献資料について、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1)新聞やニュース記事の具体的事案・事例から抽象度を上げた教科書レベルの概念・理論へ展開することができ、論理的に政治的側面・法的側面・経済的側面から問題点と解決手順を思考できる能力を養う。(2)法律行為の能力(特に契約行為の責任)を有する意味を理解し、不利益を被る場合に自ら解決に向けた思考・行動を起こせるような能力を養う。(3)政治的帰結の責任を理解し、社会を観察し行動できるような能力を養う。

《授業時間外学習》

学生の日々の何気ない行動が、法律問題に直結する形で社会と関わりを持っている。学生諸君が、法律行為の能力を有する者(=法的社会的責任を負う者)であると意識しながら、新聞記事などで社会の動きを観察するように心がけること。日常の何気ない行動であっても、その行為に関わる将来への影響の結果(outcome)が予測・想像できるようになってもらいたい。

《成績評価の方法》

1. 講義回数の3分の1以上の欠席の者は不可とする。
2. テーマに関する専門家(本学教授陣および外部講師)を数回交えて講義を展開するため、確認小テストおよび課題レポートの累計により評価する。

《備考》

ルーズリーフ形式ではなく、A4サイズ(B5サイズではない)のいわゆる大学ノートを必ず用意して、授業に臨むこと。

《授業計画》

| 週  | テーマ        | 学習内容など   |
|----|------------|--|
| 1  | オリエンテーション  | ライフサイクルにおける資金計画と時間の貨幣的価値(アルバイトの意味と奨学金制度)                         |
| 2  | 労働契約の意義    | ブラック・バイトやブラック企業などの劣悪な労働環境の事案からの考察、職業的専門家(労働基準監督官・社会保険労務士)の仕事(魅力) |
| 3  | 契約の意味      | 契約の意味、労働契約の意義、職業的専門家(法曹(法律家))の仕事(魅力)                             |
| 4  | 選挙制度の意義    | 選挙制度と国民審査制度の現状・裁判員制度の現状の考察                                       |
| 5  | 投票への準備     | 選挙制度と国民審査制度の意義・裁判員制度の意義と問題点、職業的専門家(議員・行政職公務員)の仕事(魅力)             |
| 6  | 政治的帰結の責任   | (確認小テスト)   |
| 7  | メディアと法律・人権 | ソーシャルメディア(インターネット接続端末の利用)における人権問題・法律問題の考察                        |
| 8  | メディアと法律・人権 | ソーシャルメディアと犯罪・人権侵害の事案からの考察、職業的専門家(都道府県警察本部サイバー犯罪対策課)の仕事(魅力)       |
| 9  | メディアと法律・人権 | (確認小テスト)   |
| 10 | 市民活動と住民活動  | ボランティア活動・地域活動と行政(その1)  |
| 11 | 市民活動と住民活動  | ボランティア活動・地域活動と行政(その2)  |
| 12 | 市民活動と住民活動  | (確認小テスト)   |
| 13 | 人生とお金      | ライフサイクルにおけるファイナンシャル・プラン、職業的専門家(ファイナンシャルプランナー)の仕事(魅力)             |
| 14 | 人生とお金      | 社会におけるお金の役割、所得と租税と資産運用、職業的専門家(国税専門官・税理士)の仕事(魅力)                  |
| 15 | まとめ        | (確認小テスト)   |

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 生命倫理学   | 科目ナンバリング | NNAL21001 |
| 担当者氏名                     | 本多 真  |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・II期    |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持って余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。  
 この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

- ① 提出レポートの内容について事前にコメントをする。その上での提出を求める。
- ② 授業の参加態度 10%  
 小課題 20%  
 学期末レポート 70%

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ            | 学習内容など                  |
|----|----------------|-------------------------|
| 1  | はじめに／倫理の役割     | 本講義の概要／倫理とは何か？          |
| 2  | インフォームド・コンセント① | 患者の権利／情報を与えられたうえでの合意    |
| 3  | インフォームド・コンセント② | 何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立 |
| 4  | 安楽死と尊厳死①       | 安楽死と尊厳死／その違いとは          |
| 5  | 安楽死と尊厳死②       | 死期を決めるのは誰か？             |
| 6  | 脳死と臓器移植①       | 医療技術の進歩／脳死と臓器移植の関係      |
| 7  | 脳死と臓器移植②       | 死の基準について                |
| 8  | 相互インタビュー①      | これまでの講義のふりかえり           |
| 9  | 人工妊娠中絶①        | 国家と命の関係について             |
| 10 | 人工妊娠中絶②        | 出生前診断は必要か？              |
| 11 | 人工妊娠中絶③        | 議論の組み立て方                |
| 12 | 遺伝子操作と優生思想①    | 遺伝子操作の現状                |
| 13 | 遺伝子操作と優生思想②    | 障害学について                 |
| 14 | 遺伝子操作と優生思想③    | 多様な社会を目指して／レポートのフィードバック |
| 15 | まとめ            | 講義のまとめ                  |

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 心理学   | 科目ナンバリング | NNAL21002 |
| 担当者氏名                     | 北島 律之   |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |          |           |

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70%，レポート20%，受講態度10%  
 ＊授業終了前、テーマに対するミニレポートを求めることがある。そこには授業についての意見や感想も書けるようにする。次の授業で、レポート内容や意見について回答する。  
 ＊オフィスアワーなどにおいて、質問を受け付ける。

《授業計画》

| 週  | テーマ                       | 学習内容など                                  |
|----|---------------------------|---|
| 1  | 心理学とはどんな学問なの？             | 心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1～9》         |
| 2  | 情報、入ります(知覚)               | 情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1～2, § 6～7》 |
| 3  | 覚えているって、どういうこと？(記憶)       | 記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》              |
| 4  | どうやって、学んでいくのだろう？(学習)      | 学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》      |
| 5  | 笑ったり怒ったり(感情)              | 喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5～9》               |
| 6  | いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I  | 欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1～3》                 |
| 7  | いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II | 欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2～4》         |
| 8  | 君って、どんな人？(性格) I           | 性格の基本的考え方 類型論と特性論                       |
| 9  | 君って、どんな人？(性格) II          | 性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》          |
| 10 | 私たちは大人になってきた(発達)          | 生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2～3》        |
| 11 | あの人って、きっとこうなんだ(社会的認知)     | ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1～2》            |
| 12 | 人が周りにいるから(社会的影響)          | 説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》                 |
| 13 | 無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)     | 無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》      |
| 14 | 心理学アラカルト                  | 身近にある心理学の様々なテーマ                         |
| 15 | 心理学はどんな学問か？(まとめ)          | 「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.             |

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 化学  | 科目ナンバリング | NNAL21003 |
| 担当者氏名                     | 阿部 真幸   |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。

私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（80%）および小テスト（20%）により評価します。授業の出席回数が10回以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。
- 小テストは返却し、フィードバックを行います。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など                                     |
|----|------------------|--|
| 1  | 化学で扱う数値<br>原子の構造 | 物理量と単位<br>原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素             |
| 2  | 化学結合と分子          | イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合                      |
| 3  | 物質の量と状態          | 原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度                    |
| 4  | 酸・塩基と酸化・還元       | 酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応 |
| 5  | 有機化合物の構造（1）      | 有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法                   |
| 6  | 有機化合物の構造（2）      | 置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造                |
| 7  | 有機化学反応（1）        | 化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応                    |
| 8  | 有機化学反応（2）        | 置換反応、脱離反応と付加反応                             |
| 9  | 糖質（1）            | 糖質の定義と分類、単糖類                               |
| 10 | 糖質（2）            | 二糖類、多糖類、糖質の利用                              |
| 11 | 脂質（1）            | 単純脂質、複合脂質                                  |
| 12 | 脂質（2）            | 誘導脂質、生体膜、脂質の利用                             |
| 13 | アミノ酸とタンパク質（1）    | アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド                        |
| 14 | アミノ酸とタンパク質（2）    | タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能、タンパク質・アミノ酸の利用       |
| 15 | 核酸（DNAとRNA）      | 核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能           |

《テキスト》

『コ・メディカル化学』  
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人）  
『あなたと化学』暮らしを支える化学（裳華房）  
『環境・暮らし・いのちのための化学のこころ』（裳華房）  
『ビギナーズ有機化学』（化学同人）

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読み、専門用語の意味を理解しておくこと。
- 授業内容の要点をまとめる、演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

- 質問があれば、授業終了後などに質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動（特に、私語）はしないこと。
- アクティブラーニングゾーンにて授業を行う場合もある。

《共通教育科目 自然と科学》

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 生物学   | 科目ナンバリング | NNAL21004 |
| 担当者氏名                     | 佐藤 隆  |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。  
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ           | 学習内容など                            |
|----|---------------|-----------------------------------|
| 1  | 細胞            | 細胞の構造と機能について学ぶ。                   |
| 2  | 生命体を構成する物質①   | アミノ酸、タンパク質、糖質について学ぶ。              |
| 3  | 生命体を構成する物質②   | 脂質、核酸、ビタミンについて学ぶ。                 |
| 4  | 遺伝子の構造と機能     | DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳について学ぶ。     |
| 5  | 生体とエネルギー      | 解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系について学ぶ。        |
| 6  | 光合成           | 光合成の機構について学ぶ。                     |
| 7  | 細胞分裂と細胞の分化    | 体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化について学ぶ。       |
| 8  | 生命体の受精と成長     | 生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化について学ぶ。      |
| 9  | 多細胞生物の自己維持機構① | 細胞間情報伝達システムについて学ぶ。                |
| 10 | 多細胞生物の自己維持機構② | 恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構について学ぶ。        |
| 11 | 遺伝のしくみ        | メンデルの法則、遺伝病について学ぶ。                |
| 12 | 生態系①          | 生物と環境について学ぶ。                      |
| 13 | 生態系②          | 環境問題、動物の行動について学ぶ。                 |
| 14 | 生物の進化と多様性     | 生物の誕生と進化、系統分類について学ぶ。              |
| 15 | 生命科学技術と社会     | 生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療について学ぶ。 |



|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 身のまわりの科学   |       | 科目ナンバリング | NNAL21005 |
| 担当者氏名                     | 湯瀬 晶文、穂積 隆広  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |       |          |           |

《授業の概要》

近年、非常に幅広い分野において、科学的な考え方は分野理解のために不可欠な要素となっている。この授業では科学の考え方を知らず、身の回りの様々な現象からいくつかの事例を採り上げ、「実験、体験、経験」を基本にして、「科学はどのようにものを見るのか」について説明を試みる。

なお、大学からの割り当（実施教室や予算）、および受講生の状態により内容を大きく変更することがある。

《授業の到達目標》

この授業では、身のまわりに生じている様々な現象を、科学の観点から見ようとする姿勢を身に付けることを目標とする。またいくつかの具体例において、科学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

＜実験に際しての注意点＞

自分の身は、自分で守る！

《成績評価の方法》

期末試験による評価の予定だが詳細は初回授業で確定する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

＜出席について＞

出席回数が全授業実施回数の3分の2に満たない時は、単位認定できないことがあります。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業の内容を生活の中で再確認すること。

日常生活の中で、「これはどうなっているのだろうか？」という疑問を持つようにすること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、科学的世界観は最も幅広く強力なものの一つです。専門領域にとらわれることなく、ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

| 週  | テーマ                     | 学習内容など   |
|----|-------------------------|--|
| 1  | オリエンテーション               | 授業の進め方、成績評価等についての説明と意思確認を行う。授業内容に関する説明もあるため、履修希望者は必ず出席のこと。           |
| 2  | 選挙速報のふしぎ                | 開票率1%でも「当選確実」と表示できる理由を考える。手で触って区別がつかないピンポン玉から一部を抽出して全体との比較を行う。       |
| 3  | GPSの原理                  | GPSはどうやって場所を突き止めるのかを考える。平面上でロープなどを用いてGPSの仕組みを体験する。                   |
| 4  | コンプガチャ問題<br>(コンプリートガチャ) | コンプリートガチャでかかる費用とそうなる理由を考える。手持ち資金を設定して、どの程度の費用でどの程度達成できるか実験する。        |
| 5  | ものの重さと移動                | ものの移動を通して、力学の基本とよく言われる事例を考える。力学台車に乗せる重量を変えて、どれくらいの力や時間を必要とするかを体験する。  |
| 6  | 様々なエネルギー                | 日常で簡単に使っているエネルギーとその大きさについて考える。断熱容器や手回し発電機などを用いて日常利用するエネルギーの大きさを実感する。 |
| 7  | クルクル回るものたち              | 回転するものにみられるいくつかの現象を考える。ジャイロや車輪などを用いて回転する物体の意外な現象を実験する。               |
| 8  | 火のないところに煙？              | 火を使わずに火が出る理由を考える。断熱容器内で急速に圧縮すると発火する実験を行う。                            |
| 9  | おもしろ焼きそば                | 途中で焼きそばの色が変わる理由を考える。中華そばを調理する途中で調味料により色が変わることを実験する。                  |
| 10 | 風で物を浮かべる                | 強力な送風機でピンポン玉などが浮き続ける理由を考える。ピンポン玉やカップ麺の容器が送風機により一定範囲内に浮揚することを実験する。    |
| 11 | バスボム                    | バスボムのようなものを作り、泡が出てくる理由を考える。試薬を調合してバスボムのような入浴剤を作り、実際に発泡することを実験する。     |
| 12 | 小麦粉でボン！                 | 小麦粉が爆発する理由を反応面積などから考える。粉じん爆発や酸素中でのスチールウール燃焼実験を行う。                    |
| 13 | 花火のふしぎ                  | 花火の色や酸化の仕組みを考える。炎色反応や花火の燃焼実験を行う。                                     |
| 14 | 総合演習                    | これまでの学修内容を振り返る。  |
| 15 | まとめ                     | これまでの学修内容と得られた知見を再確認する。  |

《共通教育科目 暮らしと健康》

|                           |   |          |           |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名                       | 食と健康  | 科目ナンバリング | NLIL21001 |
| 担当者氏名                     | 嶋津 裕子   |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選    | 2・選択      |
|                           |   | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-E 社会・文化について理解する力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 |          |           |

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目的とし、消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示する。国内外での実践事例や教材を紹介し、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをめざす。本授業は兵庫県教育委員会の高大連携科目でもある。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 成績評価の方法と基準  
毎回の講義後に提出を求めるリアクション用紙（20%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、定期試験（50%）
- フィードバックの方法  
わからない事はオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、資料・プリントを配布する。

《参考図書》

「くらしの豆知識（2017年9月発刊予定）」 国民生活センター  
「ハンドブック消費者 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。定期試験の受験資格は実施回数3分の2以上の出席（遅刻・早退3回は欠席1回とみなす）。

《授業計画》

| 週  | テーマ           | 学習内容など                                       |
|----|---------------|--|
| 1  | オリエンテーション     | 高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。      |
| 2  | 消費者教育の必要性     | 消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。                      |
| 3  | 消費者市民社会とは     | 消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。         |
| 4  | 消費者問題と歴史 1    | 不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。            |
| 5  | 消費者問題と歴史 2    | 食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。           |
| 6  | 消費者問題と歴史 3    | 食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。 |
| 7  | 法から見た消費生活     | 近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。 |
| 8  | 企業から見る消費者教育   | A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。     |
| 9  | 海外における消費者教育   | ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。        |
| 10 | 持続可能社会と消費者    | 持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。              |
| 11 | エシカル（倫理的）消費 1 | エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。        |
| 12 | エシカル（倫理的）消費 2 | 消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。          |
| 13 | エシカル（倫理的）消費 3 | 消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。                  |
| 14 | エシカル（倫理的）消費 4 | エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。                |
| 15 | まとめ           | 消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。   |

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 健康・スポーツ科学 I (講義)   |       | 科目ナンバリング | NLIL21002 |
| 担当者氏名                     | 三宅 一郎  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力<br>○ 基教-G 論理的思考力 |       |          |           |

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

毎時間プリントを配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力” を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。  
 <復習方法>  
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。レポートに対しコメントを付して返却する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認すると共に、今後の自己の健康管理に役立ててもらいたい。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など                                      |
|----|------------------|---|
| 1  | 授業オリエンテーション      | 授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について                 |
| 2  | 体力の考え方と構造        | 体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ                |
| 3  | 体力の測定と評価         | 体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。 |
| 4  | 体力の加齢変化と性差       | 発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。                 |
| 5  | 運動生理学の基礎         | 運動生理学の基礎知識を学ぶ。                              |
| 6  | バイオメカニクスの基礎      | バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。                           |
| 7  | 運動栄養学の基礎         | 運動栄養学の基礎知識を学ぶ。                              |
| 8  | トレーニング論の基礎       | トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。                         |
| 9  | 健康の考え方           | 様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。                        |
| 10 | 健康づくりと運動処方       | 健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。                    |
| 11 | 健康づくりと運動実践       | 健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。                |
| 12 | 健康と体力の関係         | 健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。                |
| 13 | 今後の健康づくりについて考える① | 学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。      |
| 14 | 今後の健康づくりについて考える② | 学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。      |
| 15 | まとめ              | 学んだ内容の確認と評価                                 |

《共通教育科目 くらしと健康》

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 健康・スポーツ科学 I (講義)   |       | 科目ナンバリング | NLIL21002 |
| 担当者氏名                     | 矢野 琢也  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul> |       |          |           |

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出80%、期末の課題レポート20%で評価します。分らないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

| 週  | テーマ           | 学習内容など  |
|----|---------------|---|
| 1  | オリエンテーション     | 授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。                      |
| 2  | 健康科学の現状について   | 健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。                                |
| 3  | 健康づくりと運動について1 | 健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。                   |
| 4  | 健康づくりと運動について2 | 高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。           |
| 5  | 健康づくりと運動について3 | 中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。          |
| 6  | 健康づくりと運動について4 | 若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。 |
| 7  | 健康づくりと運動について5 | 年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。           |
| 8  | 健康づくりと運動について6 | 有酸素系運動の効果と重要性について理解する。                                    |
| 9  | 健康づくりと栄養について1 | 栄養素の働きと重要性について理解する。                                       |
| 10 | 健康づくりと栄養について2 | 栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。                |
| 11 | 健康づくりと栄養について3 | 運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。                            |
| 12 | 休養について1       | コンディショニングとしての積極的休養について理解する。                               |
| 13 | 休養について2       | 休養における睡眠の意義と重要性について理解する。                                  |
| 14 | 休養について3       | スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。                  |
| 15 | まとめ           | まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。                                   |

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)   |       | 科目ナンバリング | NLIS21003 |
| 担当者氏名                     | 樽本 つぐみ、徳田 泰伸、西尾 和典   |       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

授業の最初に体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が日々の生活にアプローチできるようにする。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていく中で技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につけることを目的とする。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめる(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめるレポート提出(30%)レポートにはコメントを付して返却する

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など                                      |
|----|------------------|---|
| 1  | 授業オリエンテーション      | 授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。                      |
| 2  | 体力テスト（1回目）       | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。       |
| 3  | ①屋内種目（体育館）       | バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。 |
| 4  | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。             |
| 5  | ③屋外種目（グラウンド）     | ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。         |
| 6  | ①屋内種目（体育館）       | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施                     |
| 7  | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）                  |
| 8  | ③屋外種目（グラウンド）     | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）                      |
| 9  | ①屋内種目（体育館）       | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施                     |
| 10 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）                  |
| 11 | ③屋外種目（グラウンド）     | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）                      |
| 12 | ①屋内種目（体育館）       | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施                     |
| 13 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）                  |
| 14 | ③屋外種目（グラウンド）     | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）                      |
| 15 | 体力テスト（2回目）       | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。       |

《共通教育科目 くらしと健康》

|                           |  |       |          |           |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)   |       | 科目ナンバリング | NLIS21004 |
| 担当者氏名                     | 樽本 つぐみ、徳田 泰伸、矢野 琢也、西尾 和典   |       |          |           |
| 授業方法                      | 演習   | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
|                           |  |       |          | 1年・Ⅱ期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力<br>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめる(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめるレポート提出(30%)レポートはコメントを付して返却する

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

| 週  | テーマ              | 学習内容など                                      |
|----|------------------|---|
| 1  | 授業オリエンテーション      | 授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。                      |
| 2  | 体力テスト（1回目）       | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。       |
| 3  | ①屋内種目（体育館）       | バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。 |
| 4  | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。             |
| 5  | ③屋外種目（グラウンド）     | ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。         |
| 6  | ①屋内種目（体育館）       | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施                     |
| 7  | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）                  |
| 8  | ③屋外種目（グラウンド）     | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）                      |
| 9  | ①屋内種目（体育館）       | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施                     |
| 10 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）                  |
| 11 | ③屋外種目（グラウンド）     | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）                      |
| 12 | ①屋内種目（体育館）       | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施                     |
| 13 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）                  |
| 14 | ③屋外種目（グラウンド）     | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）                      |
| 15 | 体力テスト（2回目）       | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。       |

《共通教育科目 キャリアデザイン》

|                           |   |       |          |           |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名                       | 私のためのキャリア設計   |       | 科目ナンバリング | NCAL21001 |
| 担当者氏名                     | 三上 嘉代子  |       |          |           |
| 授業方法                      | 講義  | 単位・必選 | 2・選択     | 開講年次・開講期  |
|                           |   |       |          | 1年・I期     |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 基教-A コミュニケーション力<br>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力<br>◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 |       |          |           |

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業への取組姿勢) 50%、
2. レポート 50% (提出遅れは減点) レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

| 週  | テーマ            | 学習内容など                      |
|----|----------------|-----------------------------|
| 1  | オリエンテーション      | 授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える    |
| 2  | マナー①           | 基本編：挨拶の重要性・言葉づかい            |
| 3  | マナー②           | 実践編：面接時のマナー                 |
| 4  | コミュニケーションについて① | 聴く力、傾聴について考える               |
| 5  | コミュニケーションについて② | 伝える力、アサーショントレーニングについて考える    |
| 6  | 自分自身を理解する①     | 自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める |
| 7  | 自分自身を理解する②     | 自他評価を分析する                   |
| 8  | 自分自身を理解する③     | 相互理解を深める                    |
| 9  | 人を選ぶ・選ばれる      | 学生時代に力をいれたこと                |
| 10 | 自分の将来設計        | これから就きたい仕事                  |
| 11 | 社会が求める力を考える①   | 採用会議～自律性・自立性を高める            |
| 12 | 社会が求める力を考える②   | 考える力を身につける～適正を知る～           |
| 13 | 社会が求める力を考える③   | 総合力を身につける                   |
| 14 | 行動計画：プレゼンテーション | 準備（自分を語るシート記入）、発表           |
| 15 | 行動計画：プレゼンテーション | 発表                          |